

令和5年度 業務実績報告書



令和6年6月
公立大学法人公立千歳科学技術大学

目 次

I 公立大学法人公立千歳科学技術大学の概要

1 法人の概要

(1) 法人名	1
(2) 所在地	1
(3) 設立団体	1
(4) 設立根拠法	1
(5) 設立認可年月日	1
(6) 設立登記年月日	1
(7) 資本金	1
(8) 大学沿革	1
(9) 目標	2
(10) 業務内容	2
(11) 在学生数	2
(12) 役員	3
(13) 常勤職員（専任）の状況	3
(14) 非常勤職員（嘱託を含む）の状況	3
(15) 組織図	4

II 業務実績報告の総括

1 令和5年度業務実績評価

(1) 全体評価	5
(2) 中期計画における指標の状況	5
(3) 令和5年度計画における自己点検評価結果概要	15

別 紙

自己点検評価結果	16
----------	----

I 公立大学法人公立千歳科学技術大学の概要

1 法人の概要

- (1) 法人名 公立大学法人公立千歳科学技術大学
- (2) 所在地 千歳市美々758 番地 65
- (3) 設立団体 千歳市
- (4) 設立根拠法 地方独立行政法人法、公立大学法人公立千歳科学技術大学定款
- (5) 設立認可年月日 令和元(平成 31)年 1 月 31 日
- (6) 設立登記年月日 令和元(平成 31)年 4 月 1 日
- (7) 資本金 46 億 7,500 万円

(8) 大学沿革

平成 10 年 4 月	千歳科学技術大学開学（光科学部/物質光科学科、光応用システム学科）
平成 14 年 4 月	千歳科学技術大学大学院設置（光科学研究科 光科学専攻 博士前期課程）
平成 16 年 4 月	千歳科学技術大学大学院設置（光科学研究科 光科学専攻 博士後期課程）
平成 20 年 4 月	総合光科学部設置（バイオ・マテリアル学科、光システム学科、グローバルシステムデザイン学科）（光科学部を改組）
平成 27 年 4 月	総合光科学部（バイオ・マテリアル学科、光システム学科）を理工学部（応用化学生物学科、電子光工学科）に名称変更
平成 28 年 4 月	理工学部情報システム工学科設置（グローバルシステムデザイン学科を改組）
平成 31 年 4 月	公立千歳科学技術大学開学 理工学部/応用化学生物学科、電子光工学科、情報システム工学科
令和 3 年 4 月	大学院光科学研究科光科学専攻を大学院理工学研究科理工学専攻に名称変更

(9) 目標

本法人は、大学を設置し、及び管理することにより、科学技術分野における教育と研究を通して広く世に有為なる人材を育成するとともに、知の拠点として地域と共生し、もって産業経済の発展と人類の幸福に寄与することを目的としている。この目的を達成するため、次のとおり2つの目標を掲げている。

基本的な目標として

・人材育成

理工学分野における教育研究環境を整備して、情報技術を共通のリテラシーとして具備する将来を担う優れた技術者を育成し、地域社会ひいては国際社会の発展に貢献するグローバルな視野を持った人材の輩出を目指す。

・地域貢献

千歳市における知の拠点として地域と共生し、科技大で学ぶ若者の「知力、体力、発信力」が、将来にわたり千歳のまちづくりの活力となるよう、地域に根ざした地域貢献活動を展開する。

(10) 業務内容

- ① 大学を設置し、及び運営すること。
- ② 学生に対する修学、進路選択及び心身の健康に関する相談その他の援助を行うこと。
- ③ 法人以外のものからの委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外のものとの連携による教育研究活動を行うこと。
- ④ 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会の提供をすること。
- ⑤ 大学における教育研究の成果を普及し、及び活用を促進すること。
- ⑥ 前各号に掲げる業務に附帯する業務を行うこと。

(11) 在学生数 (令和6年5月1日現在)

学生数

学部学生	1,078名
大学院生	101名
合計	1,179名

(12) 役員

令和6年4月1日現在

職名	氏名	任期	主な業務	勤務先等	経歴
理事長	宮永 喜一	令和3年4月1日～ 令和7年3月31日	統括	公立大学法人公立千歳科学技術大学理事長・学長	平成26年4月 北海道大学情報科学研究科研究科長・教授 令和2年4月 公立千歳科学技術大学副学長・教授 令和3年4月～ 公立大学法人公立千歳科学技術大学理事長・学長
副理事長	井手 剛	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日	総務、財務、渉外、地域貢献 (SNC 構想)	公立大学法人公立千歳科学技術大学副理事長	平成26年4月 千歳市産業振興部長 平成30年6月 株式会社千歳国際ビジネス交流センター代表取締役専務取締役 令和3年7月～ 公立大学法人公立千歳科学技術大学副理事長
理事	吉本 直人	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日	教育	公立千歳科学技術大学工学部長 教授	平成23年7月 日本電信電話株式会社アクセスサービスシステム研究所光アクセスシステムプロジェクト研究プロジェクトマネージャ・理事・主席研究員 平成26年4月 千歳科学技術大学総合光科学部光システム学科・教授 令和4年4月～ 公立千歳科学技術大学工学部長・教授
理事	大越 研人	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日	研究、国際交流	公立千歳科学技術大学工学研究科長 教授	平成4年4月 出光興産株式会社中央研究所 平成26年4月 千歳科学技術大学・教授 令和3年4月～ 公立千歳科学技術大学研究科長・教授
理事 (非常勤)	小柴 正則	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日	計画評価、コンプライアンス、特命事項	北海道大学名誉教授	平成18年4月 北海道大学大学院情報科学研究科研究科長・教授 平成24年4月 北海道大学 名誉教授 平成31年4月～公立大学法人公立千歳科学技術大学理事

監事 (非常勤)	檜森 聖一	令和5年8月29日から任命後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものについての地方独立行政法人法第34条第1項に規定する財務諸表の承認の日まで	監事業務	株式会社北海道二十一世紀総合研究所顧問	平成12年7月 学校法人千歳科学技術大学監事 平成17年6月 株式会社北洋銀行常務執行役員調査部長 平成31年4月～公立大学法人公立千歳科学技術大学監事
監事 (非常勤)	高田 周一郎	令和5年8月29日から任命後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものについての地方独立行政法人法第34条第1項に規定する財務諸表の承認の日まで	監事業務	千歳法律事務所代表弁護士	弁護士 (千歳法律事務所代表弁護士) 平成31年4月～公立大学法人公立千歳科学技術大学監事

(13) 常勤職員 (専任) の状況 (令和6年4月1日現在)

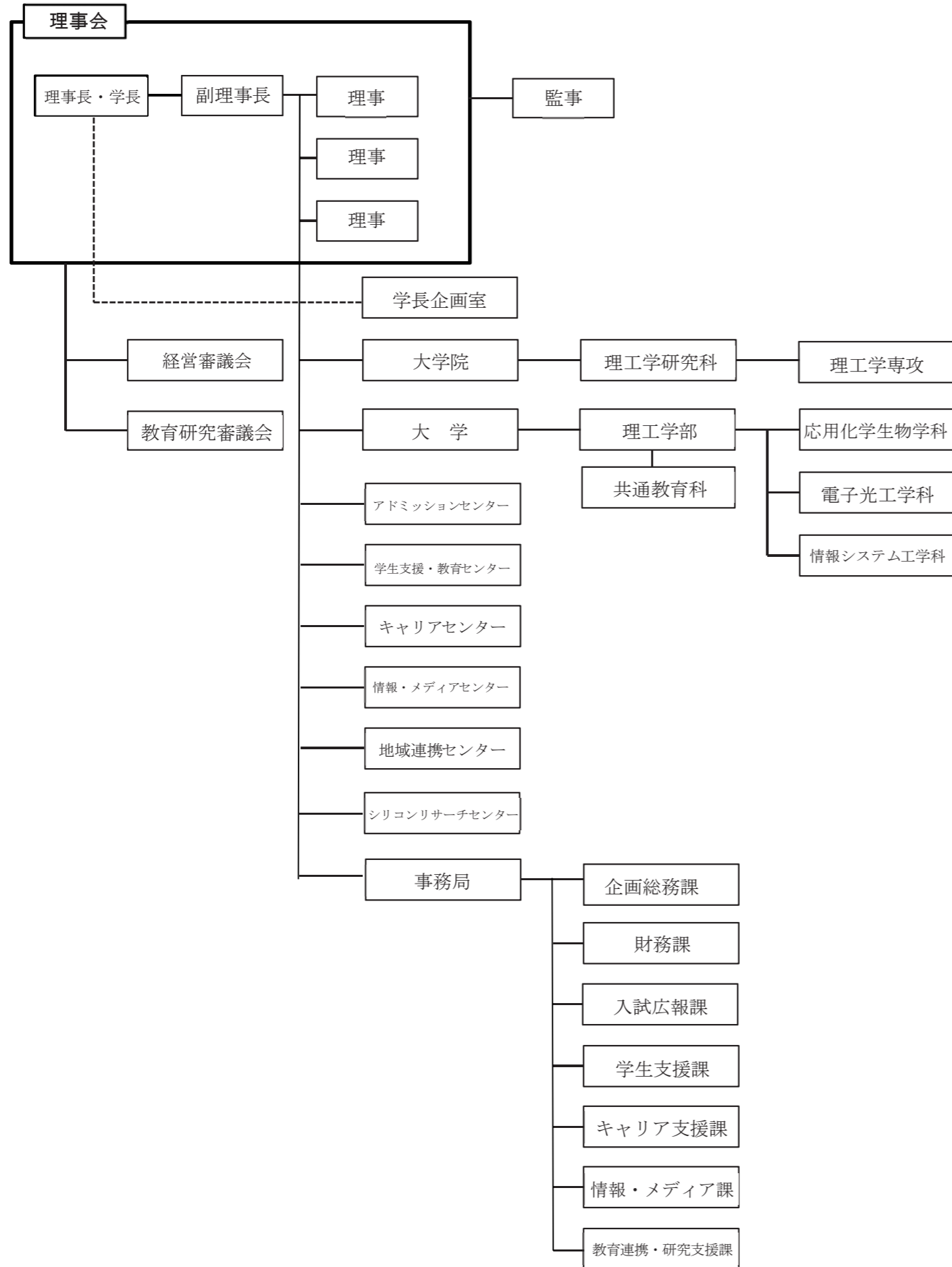
専任職員 78名 (うち教員 52名、職員 26名)

平均年齢 教員 52.8歳 職員 42.2歳

(14) 非常勤職員 (嘱託を含む) の状況 (令和6年4月1日現在)

非常勤職員 39名 (うち教員 29名、嘱託職員 10名)

(15) 組織図(令和6年4月1日現在)



II 業務実績報告の総括

1 令和5年度業務実績評価

(1) 全体評価

公立千歳科学技術大学は、優れた人材育成と地域社会に貢献できる大学として存続することを目的に、平成10年開学時の公設民営の私立大学から教育改革を断行し、地域貢献構想の提案や経営形態の変更を行うこととして、令和元年(平成31年4月)に公立千歳科学技術大学として新たにスタートした。

大学の公立化に伴い千歳市が定めた中期目標には、基本的目標として「人材育成」と「地域貢献」が掲げられ、本学は、この目標を達成するための各種の措置を中期計画に定め計画期間の第5期目となる令和5年度計画では教育研究活動をはじめとする大学運営全般について積極的に取り組んだところである。

令和5年度は、公立千歳科学技術大学の学部卒業者が大学院に進学することとなり、学部教育の充実はもちろんのこと大学院進学者が増加傾向にあるなど、大学運営の基盤となる学生確保は、定員の100%以上を確保する状況となり、安定的な大学運営をさらに推進するため大学の教育研究の一層の充実を図る時期を迎えた。

これまでの間、新型コロナウイルス感染症による授業運営への影響は、対面授業を基本にしながらもデジタル化を導入したハイフレックス授業やオンデマンド授業など様々な手法による授業に加え、計画期間中に整備した情報棟ラーニング・コモンズにおけるグループワーク形式の授業展開を増やすなど、学習効果の高い教育を推進するとともに、文部科学省により「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の応用基礎レベルが認定され、全学的に取り入れたデジタル化教育などに先進的に取り組んだ。

また、令和5年には法令等で規定される認証評価について、一般財団法人大学教育質保証・評価センターによる認証評価を受審し、令和6年3月15日付で「大学評価基準を満たしている」と認定された。

このように令和5年度計画は、中期目標達成に向けての各種業務の進捗度をさらに進めるための期間と位置づけるとともに、次期計画に結びつけるための新たな展開として大学院の拡充に重点を置いて取り組み、計画事項のすべてが「年度計画を上回って実施している」または「年度計画を計画どおりに実施している」という結果となった。

中期計画に定める「2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置」から「8 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置」では次のような指標を掲げており、その達成状況は以下に示すとおりとなった。

(2) 中期計画における指標の状況

措置内容	中期計画指標	令和5年度実績																																										
2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置	(1)-1 平成32年度(令和2年度)以降入学定員を満たし、平成33年度(令和3年度)以降継続して収容定員充足率100%を確保する(令和5年度 自己評価結果19ページ及び55ページ)	令和6年度の学部入試の入学人数は、定員どおりの人数となった。なお、学部・大学院ともに収容定員100%以上を維持した。 ●入学定員充足率(4月1日現在) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学部</td> <td>104.6%</td> <td>109.2%</td> <td>112.9%</td> <td>107.5%</td> <td>112.5%</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>大学院</td> <td>69.6%</td> <td>82.6%</td> <td>108.7%</td> <td>143.5%</td> <td>165.2%</td> <td>239.1%</td> </tr> </tbody> </table> ●収容定員充足率(5月1日現在) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学部</td> <td>97.0%</td> <td>105.3%</td> <td>114.0%</td> <td>114.0%</td> <td>114.9%</td> <td>112.3%</td> </tr> <tr> <td>大学院</td> <td>61.2%</td> <td>71.4%</td> <td>93.9%</td> <td>122.4</td> <td>155.1%</td> <td>206.1%</td> </tr> </tbody> </table>		R元	R2	R3	R4	R5	R6	学部	104.6%	109.2%	112.9%	107.5%	112.5%	100.0%	大学院	69.6%	82.6%	108.7%	143.5%	165.2%	239.1%		R元	R2	R3	R4	R5	R6	学部	97.0%	105.3%	114.0%	114.0%	114.9%	112.3%	大学院	61.2%	71.4%	93.9%	122.4	155.1%	206.1%
		R元	R2	R3	R4	R5	R6																																					
学部	104.6%	109.2%	112.9%	107.5%	112.5%	100.0%																																						
大学院	69.6%	82.6%	108.7%	143.5%	165.2%	239.1%																																						
	R元	R2	R3	R4	R5	R6																																						
学部	97.0%	105.3%	114.0%	114.0%	114.9%	112.3%																																						
大学院	61.2%	71.4%	93.9%	122.4	155.1%	206.1%																																						
(1)-2 留学生及び社会人の学修を可能とする受入れ体制の基本計画を本中期計画期間	令和5年度は、国際連携推進委員会(委員長:学長)及び同委員会の委																																											

措置内容	中期計画指標	令和5年度実績																					
	<p>中に立案する(令和5年度 自己評価結果20ページ)</p> <p>(2)-1 学部及び大学院における新カリキュラムの実施及びカリキュラムマップを全学科及び研究科単位で作成(カリキュラムマップの作成は、平成31年度及びカリキュラム変更の都度行う。)(令和5年度 自己評価結果23ページ)</p>	<p>員で構成されるワーキンググループのメンバーが、令和6年3月に基本計画の案を作成した。</p> <p>令和5年度は、学部カリキュラムでは、分野を重点的または融合的に学修できるカリキュラムを令和5年度入学者にも適用した。また、カリキュラムマップによる履修の流れについては、4月開催のガイダンスで説明した。</p> <p>大学院における新カリキュラム案の取組については、カリキュラムの検討を10月から令和6年1月まで行い、高度情報専門人材の育成に資するコース設定なども検討し、体制整備を行うため、文部科学省の「大学・高専機能強化支援事業(支援2)」の活用(採択結果は令和6年7月に公表予定)を目指すこととし、高度情報専門人材(博士前期課程定員増など)の育成や教員体制の強化を図ることとした。</p> <p>高度情報専門人材とDX人材の育成に取り組むカリキュラム内容の方針を検討し、令和7年度カリキュラムから施行する準備を整えるとともに、学部のカリキュラムの変更(学部DXプログラム:副専修)も検討した。</p>																					
	<p>(2)-2 専任教員ST比(常勤教員1人当たり学生数の割合)を本中期計画期間中に収容定員に対して19以下とする(令和5年度 自己評価結果23ページ)</p>	<p>令和5年度の専任教員ST比は、19.8となった。</p> <p>●専任教員ST比</p> <table border="1" data-bbox="1780 850 2427 1008"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24.6</td> <td>22.4</td> <td>21.9</td> <td>20.6</td> <td>20</td> <td>19.8</td> <td>19</td> </tr> </tbody> </table>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	24.6	22.4	21.9	20.6	20	19.8	19
R元	R2	R3	R4	R5		R6																	
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																	
24.6	22.4	21.9	20.6	20	19.8	19																	
	<p>(2)-3 研究科博士前期課程の大学院生の英語による学会等への発表実績を本中期計画期間中に100%にする(令和5年度 自己評価結果23ページ)</p>	<p>研究科博士前期課程の大学院生の学会等での発表実績については、令和4年度入学生(令和5年度卒業)において100%を達成した。</p>																					
	<p>(2)-4 本学の大学院への進学率を本中期計画期間中に卒業生の10%以上にする(令和5年度 自己評価結果23ページ)</p>	<p>本学大学院の進学率は、卒業生の22.2%(令和6年度入学者)となった。</p> <p>●卒業生の本学大学院への進学率</p> <table border="1" data-bbox="1780 1239 2546 1396"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11.0%</td> <td>13.6%</td> <td>12.0%</td> <td>14.6%</td> <td>10%</td> <td>22.2%</td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	11.0%	13.6%	12.0%	14.6%	10%	22.2%	10%
R元	R2	R3	R4	R5		R6																	
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																	
11.0%	13.6%	12.0%	14.6%	10%	22.2%	10%																	
	<p>(3)-1 大学院を含む研究体制、組織見直し計画を本中期計画期間中に策定する(令和5年度 自己評価結果25ページ)</p>	<p>文部科学省の「大学・高専機能強化支援事業」の申請に当たり、12月、大学院進学希望者の調査を行った結果、学部4年生では80名、令和8年度入学対象となる3年生では100名いることが判明した。</p> <p>文部科学省の「大学・高専機能強化支援事業」の申請においては、大学院の入学定員増及び大学教員5名の増員を計画し、申請が採択(令和6年7月公表予定)された場合、第2期中期計画期間に実施する。</p> <p>大学院拡充として入学定員60名、収容定員120名とする。</p>																					

措置内容	中期計画指標	令和5年度実績																					
	(3)-2 共同研究や受託研究の実績を本中期計画期間中に年20件以上にする(令和5年度自己評価結果25ページ)	<p>令和5年度は、共同研究が12件、受託研究が7件であり、これとは別に、契約が令和6年度当初にずれ込んだ共同研究が1件あり、これを加えると目標の20件となる。</p> <table border="1" data-bbox="1783 302 2484 464"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12件</td> <td>20件</td> <td>20件</td> <td>19件</td> <td>20件</td> <td>19件</td> <td>20件</td> </tr> </tbody> </table>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	12件	20件	20件	19件	20件	19件	20件
R元	R2	R3	R4	R5		R6																	
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																	
12件	20件	20件	19件	20件	19件	20件																	
	(4)-1 インターンシップの千歳市の受入れ事業所数を、年40事業所以上とする(令和5年度自己評価結果28ページ)	<p>業務の都合により、例年受け入れている企業の一部から、急遽、インターンシップの受入れ見送りの事業所が発生したため、目標達成率は94.6%になった。</p> <p>インターンシップ受入れ可能な35事業所の内、18事業所に27名の学生が参加した。</p> <p>●インターンシップ市内受入れ事業所数</p> <table border="1" data-bbox="1783 730 2424 892"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30社</td> <td>30社</td> <td>32社</td> <td>34社</td> <td>37社</td> <td>35社</td> <td>40社</td> </tr> </tbody> </table>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	30社	30社	32社	34社	37社	35社	40社
R元	R2	R3	R4	R5		R6																	
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																	
30社	30社	32社	34社	37社	35社	40社																	
	(4)-2 就職希望者就職率は、毎年100%を目指す(令和5年度自己評価結果29ページ)	<p>就職率は学部が98.2%、大学院が100.0%であった。</p> <p>学部生については、就職未決定の学生と個別に対応するなどの支援を行ったが、就職活動よりも学業(卒業)を優先する学生がいたことから、就職決定者は163名(就職希望者166名)となった。なお、大学院の就職決定者は25名であった。</p> <table border="1" data-bbox="1783 1119 2513 1270"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>99.3%</td> <td>98.0%</td> <td>97.1%</td> <td>98.4%</td> <td>100%</td> <td>98.4%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	99.3%	98.0%	97.1%	98.4%	100%	98.4%	100%
R元	R2	R3	R4	R5		R6																	
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																	
99.3%	98.0%	97.1%	98.4%	100%	98.4%	100%																	
3 地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置	(1)-1 公開講座の内容の満足度を年平均75%以上にする(令和5年度自己評価結果31ページ)	<p>受講者の満足度の年平均は、93.6%であった。</p> <table border="1" data-bbox="1783 1367 2727 1648"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>開催</th> <th>内容</th> <th>参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>6月10日</td> <td>デジタル生物学のすすめ(講師:諸橋賢吾教授)</td> <td>28名</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>10月21日</td> <td>情報通信とコンピュータ(講師:山田崇史教授)</td> <td>19名</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1月20日</td> <td>数学を使って情報システムを安全に(講師:萩原茂樹准教授)</td> <td>25名</td> </tr> </tbody> </table>	回	開催	内容	参加者	1	6月10日	デジタル生物学のすすめ(講師:諸橋賢吾教授)	28名	2	10月21日	情報通信とコンピュータ(講師:山田崇史教授)	19名	3	1月20日	数学を使って情報システムを安全に(講師:萩原茂樹准教授)	25名					
回	開催	内容	参加者																				
1	6月10日	デジタル生物学のすすめ(講師:諸橋賢吾教授)	28名																				
2	10月21日	情報通信とコンピュータ(講師:山田崇史教授)	19名																				
3	1月20日	数学を使って情報システムを安全に(講師:萩原茂樹准教授)	25名																				

措置内容	中期計画指標	令和5年度実績																																
	(1)-2 SNC推進活動の一環として市・企業等との情報交流会を本中期計画期間中に年4回以上とする(令和5年度 自己評価結果31ページ)	<p>情報交流会を7回開催した。</p> <p>●情報交流会</p> <table border="1" data-bbox="1780 262 2754 898"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>開催</th> <th>内容</th> <th>連携先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>5月2日</td> <td>InterOpto2023における千歳市及び大学のPRについて</td> <td>千歳市産業振興部</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>5月24日</td> <td>第23回千歳国際科学フォーラム(CIF23)における市民参加について</td> <td>PWC</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>8月29日</td> <td>BioJapan2023における千歳市及び大学のPRについて</td> <td>千歳市産業振興部</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>9月14日</td> <td>ビジネス EXPO2023における千歳市及び大学のPRについて</td> <td>千歳市産業振興部</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>12月1日</td> <td>nanotech2024における千歳市及び大学のPRについて</td> <td>千歳市産業振興部</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>12月26日</td> <td>サイエンステクノロジーセミナーについて</td> <td>PWC</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>3月15日</td> <td>産学官における地域連携について</td> <td>千歳工業クラブ</td> </tr> </tbody> </table>	回	開催	内容	連携先	1	5月2日	InterOpto2023における千歳市及び大学のPRについて	千歳市産業振興部	2	5月24日	第23回千歳国際科学フォーラム(CIF23)における市民参加について	PWC	3	8月29日	BioJapan2023における千歳市及び大学のPRについて	千歳市産業振興部	4	9月14日	ビジネス EXPO2023における千歳市及び大学のPRについて	千歳市産業振興部	5	12月1日	nanotech2024における千歳市及び大学のPRについて	千歳市産業振興部	6	12月26日	サイエンステクノロジーセミナーについて	PWC	7	3月15日	産学官における地域連携について	千歳工業クラブ
回	開催	内容	連携先																															
1	5月2日	InterOpto2023における千歳市及び大学のPRについて	千歳市産業振興部																															
2	5月24日	第23回千歳国際科学フォーラム(CIF23)における市民参加について	PWC																															
3	8月29日	BioJapan2023における千歳市及び大学のPRについて	千歳市産業振興部																															
4	9月14日	ビジネス EXPO2023における千歳市及び大学のPRについて	千歳市産業振興部																															
5	12月1日	nanotech2024における千歳市及び大学のPRについて	千歳市産業振興部																															
6	12月26日	サイエンステクノロジーセミナーについて	PWC																															
7	3月15日	産学官における地域連携について	千歳工業クラブ																															
	(1)-3 技術的課題等の相談件数を本中期計画期間中に年10件以上とする(令和5年度 自己評価結果32ページ)	<p>令和5年度に地域連携センターに寄せられた相談件数は、52件であった。コーディネータが担当した相談内容内訳は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学との連携希望 21件(千歳市及び恵庭市の窓口業務の効率化・DX化に関する提案(石狩振興局)など) ・学生の参加依頼 2件(イベントへの学生の協力要請) ・その他 11件(視察の受入要請) <p>●地域連携センター相談件数</p> <table border="1" data-bbox="1780 1192 2513 1354"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>33件</td> <td>15件</td> <td>24件</td> <td>45件</td> <td>10件</td> <td>52件</td> <td>10件</td> </tr> </tbody> </table>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	33件	15件	24件	45件	10件	52件	10件											
R元	R2	R3	R4	R5		R6																												
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																												
33件	15件	24件	45件	10件	52件	10件																												
	(1)-4 地域課題の分析及び解決に向けた取組促進のための情報発信数を中期計画に定める「年4回以上」にする(令和5年度 自己評価結果32ページ)	<p>令和5年度の地域連携センターによる情報発信数は、152回であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題の分析 95回(SNCコンファレンス「まちなかで始まる地域活性化」についてなど) ・課題解決に向けた取組 57回(千歳市ボランティアセンター主催のボランティア募集など) <p>●地域連携センター情報発信数</p> <table border="1" data-bbox="1780 1623 2632 1785"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>34回</td> <td>29回</td> <td>91回</td> <td>174回</td> <td>4回</td> <td>152回</td> <td>4回</td> </tr> </tbody> </table>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	34回	29回	91回	174回	4回	152回	4回											
R元	R2	R3	R4	R5		R6																												
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																												
34回	29回	91回	174回	4回	152回	4回																												

措置内容	中期計画指標	令和5年度実績																					
	(2)-1 地域における研究・教育活動実績を本中期計画期間中に年10件以上にする (令和5年度 自己評価結果33ページ)	<p>令和5年度の地域研究実績としてSNC構想を具現化する研究課題など、12件であった。</p> <p>研究テーマとして「千歳地域でのワーケーションが作業者の創造性に及ぼす効果」、「先端半導体研究と半導体エンジニア教育の整備に向けた基盤的研究」など</p> <p>●地域における研究・教育活動実績</p> <table border="1" data-bbox="1780 420 2457 579"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8件</td> <td>14件</td> <td>13件</td> <td>10件</td> <td>10件</td> <td>12件</td> <td>10件</td> </tr> </tbody> </table>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	8件	14件	13件	10件	10件	12件	10件
R元	R2	R3	R4	R5		R6																	
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																	
8件	14件	13件	10件	10件	12件	10件																	
	(2)-2 セミナー、展示等の開催実績を年2回以上とする(令和5年度 自己評価結果33ページ)	<p>令和5年度の実績は、5件であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 展示会の開催：令和6年2月 サイエンスカフェ 展示会への出展：令和5年5月 InterOpto2023 令和5年10月 BioJapan2023 令和5年11月 ビジネス EXPO2023 令和6年1月 nanotech2024 <p>●セミナー・展示会等開催数</p> <table border="1" data-bbox="1780 890 2724 1037"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6(目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セミナーの開催</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td rowspan="2">2回以上</td> </tr> <tr> <td>展示会への出展</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>3回</td> <td>3回</td> <td>4回</td> </tr> </tbody> </table>		R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	セミナーの開催	-	-	-	1回	1回	2回以上	展示会への出展	4回	3回	3回	3回	4回	
	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)																	
セミナーの開催	-	-	-	1回	1回	2回以上																	
展示会への出展	4回	3回	3回	3回	4回																		
	(3)-1 eラーニングシステムのリクエストに基づくコンテンツ改修件数を年1,500件以上とする(令和5年度 自己評価結果35ページ)	<p>令和5年度の実績は、5,899件であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書作成・修正 269件 CBT教材作成 4,831件 テスト修正 799件 <p>●コンテンツ改修件数</p> <table border="1" data-bbox="1780 1276 2754 1436"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,863件</td> <td>8,146件</td> <td>3,151件</td> <td>5,099件</td> <td>1,500件</td> <td>5,899件</td> <td>1,500件</td> </tr> </tbody> </table>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	1,863件	8,146件	3,151件	5,099件	1,500件	5,899件	1,500件
R元	R2	R3	R4	R5		R6																	
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																	
1,863件	8,146件	3,151件	5,099件	1,500件	5,899件	1,500件																	
	(3)-2 学力向上に向けた地域の教育関係者との意見交換会の開催を年1回以上とする(令和5年度 自己評価結果35ページ)	<p>令和5年度は、3回開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 千歳市教育委員会とのeカレッジに関する打合せ 北海道教育委員会との連携内容の確認 北海道教育委員会との連携内容の確認 <p>●意見交換会開催数</p> <table border="1" data-bbox="1780 1663 2487 1822"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>3回</td> <td>1回</td> </tr> </tbody> </table>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	4回	3回	2回	2回	1回	3回	1回
R元	R2	R3	R4	R5		R6																	
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																	
4回	3回	2回	2回	1回	3回	1回																	

措置内容	中期計画指標	令和5年度実績																														
	(4)-1 関係団体との意見交換会の開催を年2回以上とする(令和5年度 自己評価結果36ページ)	<p>令和5年度は、6回開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会とボランティア活動について意見交換 ・市内3高等教育機関による意見交換 ・レントドゥ！と学生向けのアパート情報についての意見交換 ・住まいの戸田と学生向けのアパート情報についての意見交換 ・市内3高等教育機関による意見交換 ・連携ネットワーク会議で研究分野での協力や学生の交流についての意見交換 <p>●市内の関係団体との意見交換会開催回数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>2回</td> <td>6回</td> <td>2回</td> </tr> </tbody> </table>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	5回	5回	5回	5回	2回	6回	2回									
R元	R2	R3	R4	R5		R6																										
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																										
5回	5回	5回	5回	2回	6回	2回																										
	(4)-2 理工工房や学習ボランティアなど学生の学びやサークル活動の市内における活動実績を年50回以上とする(令和5年度 自己評価結果36ページ)	<p>令和5年度の実績は、161回であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理工工房77回 ・学習ボランティア84回 <p>学習ボランティア登録学生は8名(学部の3年生1名、2年生3名、1年生4名)で、千歳市学習支援事業「ちとせ学習チャレンジ塾」に参加した。</p> <p>●学生の学びやサークル活動の市内における活動実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>理工工房</td> <td>96回</td> <td>14回</td> <td>32回</td> <td>65回</td> <td rowspan="2">50回</td> <td>77回</td> <td rowspan="2">50回</td> </tr> <tr> <td>学習ボランティア</td> <td>70回</td> <td>34回</td> <td>36回</td> <td>24回</td> <td>84回</td> </tr> </tbody> </table>		R元	R2	R3	R4	R5		R6		実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	理工工房	96回	14回	32回	65回	50回	77回	50回	学習ボランティア	70回	34回	36回	24回	84回
	R元	R2	R3	R4	R5		R6																									
	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																									
理工工房	96回	14回	32回	65回	50回	77回	50回																									
学習ボランティア	70回	34回	36回	24回		84回																										
4 国際交流に関する目標を達成するための措置	(1)-1 提携大学数を本中期計画期間中に5大学以上にする(令和5年度 自己評価結果37ページ)	<p>令和元年度以降の(海外)提携大学は、6大学で延べ9大学となった。8月にプリンス・オブ・ソクラ大学、11月にモンクット王工科大学ラカバン校と締結した。</p> <p>●提携大学数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>3大学</td> <td>3大学</td> <td>4大学</td> <td>7大学</td> <td>5大学</td> <td>9大学</td> <td>5大学</td> </tr> </tbody> </table>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	3大学	3大学	4大学	7大学	5大学	9大学	5大学									
	R元	R2	R3	R4	R5		R6																									
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																										
3大学	3大学	4大学	7大学	5大学	9大学	5大学																										
	(2)-1 海外の提携・協力先機関を本中期計画期間中に5機関(大学を含む)以上にする(令和5年度 自己評価結果38ページ)	<p>同上</p> <p>●提携・協力先機関数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>3機関</td> <td>3機関</td> <td>4機関</td> <td>7機関</td> <td>5機関</td> <td>9機関</td> <td>5機関</td> </tr> </tbody> </table>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	3機関	3機関	4機関	7機関	5機関	9機関	5機関									
R元	R2	R3	R4	R5		R6																										
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																										
3機関	3機関	4機関	7機関	5機関	9機関	5機関																										

措置内容	中期計画指標	令和5年度実績																					
5 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	(1)-1 FD・SD合同研修会の回数を年1回以上とする(令和5年度 自己評価結果40ページ)	<p>令和5年度は、2回開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員・情報通信技術支援員(ICT支援員)著作権講習会 16名(教員10名、職員6名) ・情報セキュリティ研修会「ゼロトラスト環境について～ゼロトラストVPNの安全範囲を理解する～ メールやOneDriveの多要素認証の試行について」 105名(教員51名、職員54名) <p>●FD・SD合同研修会開催数</p> <table border="1" data-bbox="1780 493 2537 655"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0(1)回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>3回</td> <td>1回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> </tr> </tbody> </table>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	0(1)回	2回	1回	3回	1回	2回	1回
R元	R2	R3	R4	R5		R6																	
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																	
0(1)回	2回	1回	3回	1回	2回	1回																	
	(2)-1 SD研修会の回数を年2回以上とする(令和5年度 自己評価結果41ページ)	<p>令和5年度は、8回開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語能力向上研修(6月開催、対面型、職員1名参加) ・公立大学職員研修(8月開催、対面型、職員2名参加) ・公立大学法人会計セミナー(9月開催、オンライン型、職員2名参加) ・ハラスメント防止研修(9月開催、ハイフレックス型、教員48名・職員35名参加) <p>ほか4回</p> <p>●SD研修会開催数</p> <table border="1" data-bbox="1780 1003 2478 1165"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1(2)回</td> <td>6回</td> <td>8回</td> <td>8回</td> <td>2回</td> <td>8回</td> <td>2回</td> </tr> </tbody> </table>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	1(2)回	6回	8回	8回	2回	8回	2回
R元	R2	R3	R4	R5		R6																	
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																	
1(2)回	6回	8回	8回	2回	8回	2回																	
	(2)-2 学外研修会の参加回数を年2回以上とする(令和5年度 自己評価結果42ページ)	<p>令和5年度は、8回開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新人社員スキルアップ合同研修会(4月開催、対面型、職員2名参加) ・公立大学に関する基礎研修(4月開催、オンライン型、職員2名参加) ・公立大学協会担当者研修(6月開催、オンライン型、職員2名参加) ・英語能力向上研修(6月開催、対面型、職員1名参加) <p>ほか4回</p> <p>●学外研修会開催数</p> <table border="1" data-bbox="1780 1486 2448 1648"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>7回</td> <td>8回</td> <td>2回</td> <td>8回</td> <td>2回</td> </tr> </tbody> </table>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	4回	4回	7回	8回	2回	8回	2回
R元	R2	R3	R4	R5		R6																	
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																	
4回	4回	7回	8回	2回	8回	2回																	

措置内容	中期計画指標	令和5年度実績																					
	(3)-1 教員のFD研修会の回数を年2回以上とする(令和5年度 自己評価結果44ページ)	<p>令和5年度は、3回開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイトル「ゼロトラスト環境について～ゼロトラストVPNの安全範囲を理解する～」 開催日 令和6年2月22日 講師 本学 砂原 悟 助教 参加者 105名(教員51名、職員54名) ・学修成果の可視化と教育のDXについて(「金沢工業大学における教育DXの取組と学修者支援」、「学修/教育eポートフォリオとその深化～大学統合を経た大阪公立大学における学修成果の可視化～」) 開催日 令和6年2月28日 講師 山本 知仁 教授(金沢工業大学 工学部) 星野 聡孝 教授(大阪公立大学 国際基幹教育機構) 参加者 23名(教員17名、職員6名) ・本学の教職課程とそれを取り巻く状況について(「科技大教職課程の概要と理念」、「高等学校における「探究」に関する取組について」) 開催日 令和6年3月27日 講師 本学 宮嶋 衛次 教授 <p>●FD研修会開催数</p> <table border="1" data-bbox="1777 961 2451 1123"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0(2)回</td> <td>2回</td> <td>3回</td> <td>3回</td> <td>2回</td> <td>3回</td> <td>2回</td> </tr> </tbody> </table>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	0(2)回	2回	3回	3回	2回	3回	2回
R元	R2	R3	R4	R5		R6																	
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																	
0(2)回	2回	3回	3回	2回	3回	2回																	
6 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	(1)-1 科学研究費助成事業応募申請率を本中期計画期間中に専門教育担当教員の100%とする(令和5年度 自己評価結果46ページ)	<p>令和5年度の科研費の応募申請率は、94.4%(分母として専門教育担当教員36名中、応募者34名)であった。</p> <p>●科学研究費助成事業応募申請率</p> <table border="1" data-bbox="1777 1304 2662 1444"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50.0%</td> <td>65.5%</td> <td>76.5%</td> <td>80.0%</td> <td>90%</td> <td>94.4%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	50.0%	65.5%	76.5%	80.0%	90%	94.4%	100%
R元	R2	R3	R4	R5		R6																	
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																	
50.0%	65.5%	76.5%	80.0%	90%	94.4%	100%																	

措置内容	中期計画指標	令和5年度実績																																										
	(1)-2 外部資金獲得件数 受託・共同研究を本中期計画期間中に年20件以上にする 奨学寄附金を本中期計画期間中に年15件以上にする (令和5年度 自己評価結果47ページ)	令和5年度は、受託・共同研究19件、奨学寄附金14件であった。 ●受託・共同研究実績 <table border="1" data-bbox="1783 264 2513 426"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12件</td> <td>20件</td> <td>20件</td> <td>19件</td> <td>20件</td> <td>19件</td> <td>20件</td> </tr> </tbody> </table> ●奨学寄附金受入れ実績 <table border="1" data-bbox="1783 464 2513 625"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5件</td> <td>8件</td> <td>10件</td> <td>6件</td> <td>15件</td> <td>14件</td> <td>15件</td> </tr> </tbody> </table> 共同研究や受託研究の実績を増やすため、「研究シーズ集」を広く企業等に配付・PRするとともに、約300部を展示会（InterOpto2023、BioJapan2023、ビジネスEXP02023、nanotech2024）で配付した。	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	12件	20件	20件	19件	20件	19件	20件	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	5件	8件	10件	6件	15件	14件	15件
R元	R2	R3	R4	R5		R6																																						
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																																						
12件	20件	20件	19件	20件	19件	20件																																						
R元	R2	R3	R4	R5		R6																																						
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																																						
5件	8件	10件	6件	15件	14件	15件																																						
	(2)-1 健全な財務運営のため、当該計画の予算の範囲内で収支均衡を図る(令和5年度自己評価結果48ページ)	令和5年度決算の損益計算書において、449,042,620円(臨時利益資産見返戻入373,335,271円含む)の利益が生じた。また、令和6年度予算編成においては、目的積立金(134,839,000円)を取り崩し、収支均衡を図った。																																										
7 自己点検、評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置	(1)-1 認証評価機関の評価で「適合」を取得する(令和5年度 自己評価結果49ページ)	令和5年11月に一般財団法人大学教育質保証・評価センターによる認証評価を受審し、令和6年3月に「大学評価基準を満たしている」と認定された。																																										
	(2)-1 ホームページ内のニューストピックスの件数を年100件以上とする(令和5年度自己評価結果50ページ)	令和5年度の実績は、162件であった。 内訳は、お知らせ30件、入試関係54件、地域連携43件、研究情報4件、学生生活動15件、就職・キャリア4件ほか ●ニューストピックスの件数 <table border="1" data-bbox="1783 1152 2662 1314"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>135件</td> <td>168件</td> <td>175件</td> <td>187件</td> <td>100件</td> <td>162件</td> <td>100件</td> </tr> </tbody> </table>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	135件	168件	175件	187件	100件	162件	100件																					
R元	R2	R3	R4	R5		R6																																						
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																																						
135件	168件	175件	187件	100件	162件	100件																																						
	(2)-2 報道機関へのプレスリリースの回数を年20件以上とする(令和5年度 自己評価結果51ページ)	令和5年度の実績は、39件であった。 プレスリリースの内訳は、入試関係4件、学生表彰関係8件、地域連携14件、法人情報2件、教員表彰関係5件、研究情報4件、国際連携2件。 ●プレスリリースの回数 <table border="1" data-bbox="1783 1493 2484 1654"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20件</td> <td>25件</td> <td>32件</td> <td>38件</td> <td>20件</td> <td>39件</td> <td>20件</td> </tr> </tbody> </table>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	20件	25件	32件	38件	20件	39件	20件																					
R元	R2	R3	R4	R5		R6																																						
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																																						
20件	25件	32件	38件	20件	39件	20件																																						

措置内容	中期計画指標	令和5年度実績																																
8 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	(1)-1 コンプライアンスの研修会を年1回以上とする(令和5年度 自己評価結果52ページ)	<p>令和5年度は、5回開催した。</p> <p>学生向け：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生ガイダンスでのコンプライアンス研修、租税セミナー ・交通安全講習 <p>教職員向け：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教員向け」として「研究活動における不正行為や研究費の不正使用防止について」 ・「教職員向け」として「公的機関におけるコンプライアンスについて」 <p>●コンプライアンス研修会開催数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th></th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生</td> <td>4回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>5回</td> <td>1回</td> <td>3回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>各1回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> </tr> </tbody> </table>		R元	R2	R3	R4	R5		R6		実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	学生	4回	2回	2回	5回	1回	3回	1回	教職員	1回	1回	各1回	2回	1回	2回	1回
		R元	R2	R3	R4	R5		R6																										
		実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																										
	学生	4回	2回	2回	5回	1回	3回	1回																										
教職員	1回	1回	各1回	2回	1回	2回	1回																											
(1)-2 人権尊重の意識向上対策活動として教職員並びに学生に対し年1回以上研修を行う(令和5年度 自己評価結果52ページ)	<p>令和5年度は、学生対象1回・教職員対象を2回開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生対象:キャンパスハラスメント防止研修 ・教員対象:ハラスメント防止研修 ・教職員対象:大学におけるハラスメント防止対策に関する教職員セミナー(オンライン型) など <p>●人権尊重の意識向上研修開催数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th></th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生</td> <td>4回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>各1回</td> <td>各1回</td> <td>各1回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> </tr> </tbody> </table>		R元	R2	R3	R4	R5		R6		実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	学生	4回	2回	1回	1回	1回	1回	1回	教職員	1回	1回	各1回	各1回	各1回	2回	1回	
	R元	R2	R3	R4	R5		R6																											
	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																											
学生	4回	2回	1回	1回	1回	1回	1回																											
教職員	1回	1回	各1回	各1回	各1回	2回	1回																											
(1)-3 eラーニングによる研究倫理研修の教員参加率を年100%とする(令和5年度 自己評価結果52ページ)	<p>令和5年度は、新規採用職員4名全員が受講した(参加率100%)。</p> <p>●研究倫理研修教員参加率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%												
R元	R2	R3	R4	R5		R6																												
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																												
100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%																												
(2)-1 情報セキュリティに関する研修会を年1回以上とする(令和5年度 自己評価結果53ページ)	<p>令和5年度の情報セキュリティに関する研修会は、1回開催した。</p> <p>内容:ゼロトラスト環境について～ゼロトラストVPNの安全範囲を理解する～メールやOneDriveの多要素認証の試行について</p> <p>開催:全教職員の参加を必須とし、当日参加できない教職員向けに動画配信を行った</p> <p>●情報セキュリティ研修会開催数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0(1)回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> </tbody> </table>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	0(1)回	2回	1回	2回	1回	1回	1回												
R元	R2	R3	R4	R5		R6																												
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																												
0(1)回	2回	1回	2回	1回	1回	1回																												

措置内容	中期計画指標	令和5年度実績																					
	(2)-2 消防訓練の実施を年2回以上とする(令和5年度 自己評価結果53ページ)	令和5年度の消防訓練は、図上訓練、実施訓練を各1回実施した。 <table border="1"> <tr> <td>R元</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td colspan="2">R5</td> <td>R6</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>各1回</td> <td>各1回</td> <td>各1回</td> <td>2回</td> </tr> </table>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	2回	2回	2回	各1回	各1回	各1回	2回
R元	R2	R3	R4	R5		R6																	
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																	
2回	2回	2回	各1回	各1回	各1回	2回																	
	(3)-1 本中期計画期間中にグループワークを取り入れた授業科目数を平成30年度比1.5倍以上にする(令和5年度 自己評価結果54ページ)	情報棟(新校舎)に設置したラーニング・コモンズ(グループワークに対応したスペース)は21科目で利用されており、平成30年度(10科目)の2.1倍の利用となった。																					
	(3)-2 施設改修、維持管理を適切に実施するため、本中期計画期間中に修繕計画を作成する(令和5年度 自己評価結果54ページ)	施設改修、維持管理を適切に実施するため、インフラ長寿命化基本計画を踏まえた個別施設計画策定の準備を進めるため、建物総合管理を委託している業者と7月に打ち合わせを行い、経年劣化箇所などを確認した。																					

(3) 令和5年度計画における自己点検結果概要

令和5年度の自己評価の定義は、A(年度計画を上回って実施している)、B(年度計画を計画どおりに実施している)、C(年度計画をやや遅れて実施している/実施が不十分)として事業項目ごとの評価結果は、142項目のうちA評価が82件(57.75%)、B評価が60件(42.25%)及びC評価はなく、内訳は下記の表とおりである。

令和5年度大項目別自己評価結果

事業項目	A	B	C	計
2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置	27	22	0	49
3 地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置	19	8	0	27
4 国際交流に関する目標を達成するための措置	5	1	0	6
5 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	9	12	0	21
6 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	10	3	0	13
7 自己点検、評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置	4	4	0	8
8 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	8	10	0	18
合 計	82	60	0	142
割 合	57.75%	42.25%	0%	100.0%

公立大学法人公立千歳科学技術大学 令和5年度計画 業務実績報告(項目1)

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績
<p>はじめに</p> <p>公立千歳科学技術大学（以下「科技大」という。）は、科学技術を中心に人類の繁栄と技術革新への対応という観点から、未知へ挑戦する研究や豊かな人間性を備えた有能な人材を育成することを大学設置の趣旨として、平成10年4月に「公設民営」方式によって設置された千歳科学技術大学を母体としている。</p> <p>科技大は、人格に優れ、次代の日本を担う自立心と人間力に満ちた社会人を育成し、優れた技術者を輩出するとともに、学術・技術の振興に努める。さらに、千歳市における知の拠点として、将来にわたって地域と共生し、産業経済の発展に寄与することを目的として、平成31年4月に公立大学法人として出発する。</p> <p>この目的を達成するため、次のとおり中期目標を定める。</p> <p>基本的な目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成 <p>理工学分野における教育研究環境を整備して、情報技術を共通のリテラシー^{※1}として具備する将来を担う優れた技術者を育成し、地域社会ひいては国際社会の発展に貢献するグローバルな視野を持った人材の輩出を目指す。</p> <p>※1 リテラシー：知識を活用して問題を解決する能力のこと。習得した知識を現実の問題に活用できる能力をいう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献 <p>千歳市における知の拠点として地域と共生し、科技大で学ぶ若者の「知力、体力、発信力」が、将来にわたり千歳のまちづくりの活力となるよう、地域に根ざした貢献活動を展開する。</p> <p>1 中期目標の期間及び教育研究上の基本組織</p> <p>(1) 中期目標の期間</p> <p>平成31年4月1日から令和7年3月31日まで (2019年4月1日から2025年3月31日まで)</p>	<p>はじめに</p> <p>公立千歳科学技術大学の前身である千歳科学技術大学は、千歳市が母体となる公設民営大学として平成10年に発足した。</p> <p>千歳科学技術大学の開学から20年以上を経過する中で、情報化や少子化の急速な進展など、大学を取り巻く環境は大きく変化した。</p> <p>このような環境下で、優れた人材育成と地域社会に貢献できる大学として存続するために、新たに教育改革、地域貢献構想の提案、経営形態の変更による大学改革を行うこととし、平成31年4月、公立大学法人公立千歳科学技術大学が開学した。</p> <p>公立千歳科学技術大学の目的は、理工学分野をはじめとする幅広い教育と研究を通して高い知性と優れた人格を有する、世に有為なる人材を育成するとともに、学術・産業の振興に貢献し、知の拠点として地域との共生を通して、地域ひいては国際社会の発展に寄与することである。</p> <p>また、公立大学法人公立千歳科学技術大学の中期目標では、理工学分野における教育研究環境を整備して、情報技術を共通のリテラシー^{*1}として具備する将来を担う優れた技術者を育成し、グローバルな視野を持った人材の輩出を目指すことと、大学で学ぶ若者の「知力、体力、発信力」が、将来にわたり千歳のまちづくりの活力となるよう、地域に根ざした貢献活動を展開することが求められている。</p> <p>これらの目標を実現するため、大学経営にあたっては、理事長（学長）のリーダーシップの下で戦略的かつ機動的に大学を運営できる体制を構築し、次のとおり中期計画を策定する。</p> <p>1 中期計画の期間</p> <p>中期計画の期間は、平成31年4月1日から平成37年（令和7年）3月31日（2019年4月1日から2025年3月31日）までの6年間とする。</p>	<p>中期目標及び中期計画に基づく令和5年度の年度計画を次のとおり策定する。</p> <p>1 令和5年度年度計画の期間</p> <p>年度計画の期間は、令和5年4月1日から令和6年3月31日までの1年間とする。</p>		

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績													
<p>(2) 教育研究上の基本組織</p> <p>ア 学部</p> <table border="1" data-bbox="100 306 608 474"> <thead> <tr> <th>学部</th> <th>学科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">理工学部</td> <td>応用化学生物学科</td> </tr> <tr> <td>電子光工学科</td> </tr> <tr> <td>情報システム工学科</td> </tr> </tbody> </table> <p>イ 大学院</p> <table border="1" data-bbox="100 554 724 680"> <thead> <tr> <th>研究科</th> <th>専攻</th> <th>課程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">理工学研究科</td> <td rowspan="2">理工学専攻</td> <td>博士前期課程</td> </tr> <tr> <td>博士後期課程</td> </tr> </tbody> </table>	学部	学科	理工学部	応用化学生物学科	電子光工学科	情報システム工学科	研究科	専攻	課程	理工学研究科	理工学専攻	博士前期課程	博士後期課程				
学部	学科																
理工学部	応用化学生物学科																
	電子光工学科																
	情報システム工学科																
研究科	専攻	課程															
理工学研究科	理工学専攻	博士前期課程															
		博士後期課程															

公立大学法人公立千歳科学技術大学 令和5年度計画 業務実績報告(項目2)

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績
<p>2 教育研究等の質の向上に関する目標</p> <p>(1) 学生の受入れに関する目標</p> <p>アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）を明確に定め、多面的な評価による入試の推進と国の入試制度改革への対応を行うとともに、受験生の利便性への配慮など、受験環境の改善を進め、意欲ある学生の確保に努める。また、留学生や社会人等、多様な人材の受入れを推進するための検討を行う。</p>	<p>2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 学生の受入れに関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 本学が求める入学者を確保するため、主に知識や思考力を評価する一般選抜のほか、総合型選抜*²、学校推薦型選抜を実施する。</p> <p>① 総合型選抜では、小論文、課題、調査書、面接試験などにより多面的な評価を実施する。</p> <p>② 学校推薦型選抜については基礎学力を担保した上で、調査書及び面接試験を通じて、求める入学者確保を可能とする評価を実施する。</p>	<p>2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 学生の受入れに関する目標を達成するための措置</p> <p>ア アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）に基づく入学者を確保するため、主に知識や思考力を評価する一般選抜*¹のほか、総合型選抜*¹、学校推薦型選抜*¹を実施する。</p> <p>① 総合型選抜*²では、前年度の内容を検証し、必要に応じて実施方法・評価方法等を見直し、多面的な評価を行うこととし、特に「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を重視する選抜を実施する。</p> <p>② 学校推薦型選抜では、千歳地区と全国の区分に分けて選抜を行うこととし、基礎学力を担保するため、学校長推薦書及び調査書の提出のほか、試験日には面接試験や数学の基礎学力検査、小論文を課す。また、前年度の内容を検証し、必要に応じて実施方法・評価方法等を見直しを行う。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>○ 前年度の総合型選抜の実施結果を踏まえ、総合型選抜の実施方法や評価方法について検討し、7月に開催した入学委員会において選抜方法を決定した。見直し内容は、生成AIの普及に伴い志願者自身の力で記載させることとし、<u>志望理由書及び小論文のテーマを変更するとともに、選抜方法別（志望理由書、小論文、Web学習教材、基礎学力検査（数学）、グループワーク及びプレゼンテーション、面接試験、調査書）並びに学力の3要素別（「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・協働性」）の配点（「主体性・協働性」に関する配点の比重を高める）、スクーリングにおけるグループワークの課題及び実施方法などの変更を行った。</u></p> <p>○ 令和6年度入学者選抜では18名の募集人員に対し、<u>61名の志願（前年度入試55名）</u>があり、志望理由書及び小論文並びにWeb学習教材を活用した学習の取組状況を総合的に判断し、10月13日に1次選考の結果を発表した。10月29日には1次選考通過者に対し、スクーリング（基礎学力検査（数学）・グループワーク・プレゼンテーション）及び面接試験からなる2次選考を本学で実施し、11月に合格者19名（前年度入試19名）の発表を行った。なお、合格者19名全員が入學手続きを完了し、入学（前年度入試19名）した。</p> <p>○ 前年度の学校推薦型選抜の実施結果を踏まえ、学校推薦型選抜の実施方法や評価方法について検討し、7月に開催した入学委員会において選抜方法を決定した。見直し内容は、生成AIの普及に伴い<u>自己推薦書のテーマを変更し</u>、志願者自身の力で記載させることとした。</p> <p>○ 令和6年度入学者選抜の内、学校推薦型A（千歳地区）は12名の募集人員に対し、9名の志願（前年度入試12名）があり、学校推薦型B（全国）は30名の募集人員に対し、67名の志願（前年度入試66名）があった。書類審査（自己推薦書・学校長推薦書・調査書）の後、志願者に対して12月2日及び12月3日に基礎学力検査（数学）、小論文及び面接試験を実施し、12月13日に学校推薦型A（千歳地区）7名（前年度入試6名）、学校推薦型B（全国）30名（前年度入試38</p>

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績
	<p>イ 効果的な広報活動・学生募集活動を実施するとともに、受験者の試験会場等の利便性にも配慮する。</p> <p>ウ 国の入試制度改革にあわせて遅滞なく本学の入試制度を改革する。</p> <p>エ 留学生及び社会人の学修を可能とする受入れ体制の整備に向けた検討を行い、受入れに向けた基本的な計画を本中期計画期間中に立案する。</p> <p>【指標】 2-(1)-1 平成32年度（令和2年度）以降入学定員を満たし、平成33年度（令和3年度）以降継続して収容定員充足率100%を確保する。</p>	<p>イ 広報・学生募集活動として、オープンキャンパスについては、Web型・来場型で実施するとともに、出張授業、進学相談会、高校訪問等を行う。なお、進学相談会については、道内のほか引き続き東北地区を重点地域に定め、積極的に参加する。また、一般選抜試験の前期日程では、本学以外の試験会場を道内外に設置する。</p> <p>ウ 国の入試制度改革に合わせ、令和7年度入学者選抜制度概要（予告）について検討し、速やかにホームページで公表する。</p> <p>エ 留学生及び社会人の受入れ体制に関する基本計画の立案に向け、国際連携推進委員会*3及びワーキンググループで基本事項の整理を行うとともに、基本計画の素案を作成する。</p> <p>【指標】 2-(1)-1 令和6年度入学者数の定員充足率を中期計画に定める「100%」にする。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>名）、合計37名（前年度入試44名）の合格者を発表した。なお、合格者37名全員が入学手続きを行い、入学（前年度入試44名）した。</p> <p>○ オープンキャンパスについては、6月開催の第1回目には来場型232名、オンデマンド配信64名、8月開催の第2回目には来場型610名、オンデマンド配信104名、10月開催の第3回目には来場型244名、オンデマンド配信52名の参加があった。来場型、オンデマンド配信での参加者総計は1,306名（前年度1,200名）であった。</p> <p>○ 出張授業については、オンライン実施5回を含め、計24回（前年度26回）実施した。</p> <p>○ 大学見学については、高校生及びPTA研修の見学を合わせて、計8回（前年度1回）の受入れを行った。</p> <p>○ 進学相談会については、会場参加118会場、Web参加6会場、資料参加92会場（内、重点地域である東北地区の進学相談会は、会場参加17会場、資料参加37会場）に参加し、総計で1,571名（前年度1,304名）の高校生及び保護者等に対し、本学の教育・研究内容や入試制度等について直接伝え、本学への理解を深めてもらうことができた。</p> <p>○ 高校訪問については、入学実績校を中心に道内及び東北地区（青森県、秋田県、岩手県）の高校101校（前年度101校）を訪問し、令和6年度入試及び高等学校新学習指導要領に基づく令和7年度入試の概要等について説明を行った。</p> <p>○ 一般選抜前期日程については、本学会場のほかに旭川、函館、釧路、仙台（前年度は盛岡）、東京、大阪（前年度は名古屋）に地方試験会場を設け、計45名（前年度54名）から出願があり、地方受験者の利便性の向上を図ることができた。</p> <p>○ 令和7年度入学者選抜制度概要（予告）を令和6年3月、本学ホームページで公表した。</p> <p>○ 国際連携推進委員会（委員長：学長）及び同委員会の委員で構成されるワーキンググループのメンバーが、令和6年3月に基本計画の案を作成した。</p> <p>○ 令和6年度の学部入試の入学者数は、定員どおりの人数となった。なお、学部・大学院ともに収容定員100%以上を維持した。（「入学定員充足率」及び「収容定員充足率」の詳細は、</p>

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績
<p>(2) 教育に関する目標</p> <p>ア 学部教育に関する目標</p> <p>幅広い基礎的学力と、共通基盤となる数理情報系スキルを修得し、その上で専門分野における融合的な理工学の知識と実践的な技術を身に付けた人材を育成する。併せて、千歳を題材とした授業科目の導入などにより、フィールドワークを含む学修を通して社会人基礎力を身に付け、どのような業種に進んだ場合においても柔軟に適応でき、生涯にわたって学び続ける力を有し、広く社会で活躍できる人材の育成を目指す。</p>	<p>2-(1)-2 留学生及び社会人の学修を可能とする受入れ体制の基本計画を本中期計画期間中に立案する。</p> <p>(2) 教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 学部教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 特色ある教育システムの確立</p> <p>①-1 人間性に資する教養教育に加えて幅広い理工系素養の修得と、専門分野にかかわらず数理情報系スキルの活用力を強みとする人材の育成を可能とする学部共通科目、専門科目を体系的に配置する。</p> <p>①-2 専門科目では、各学科に履修プランを設定し、一つの分野を重点的に、またはいくつかの分野を融合的に履修可能にする。</p> <p>①-3 カリキュラムの体系を示すカリキュラムマップを作成し、わかりやすく明示する。</p> <p>①-4 大学としてディプロマ・ポリシー (DP) *3 に沿ったコンピテンシー*4を定義し、教員一人ひとりがシラバス*5を通じて学生が獲得すべきコンピテンシーを明示する。 (教育内容の質保証)</p> <p>①-5 学生自らが正課及び正課外を通じた学修成果 (DPに沿ったコンピテンシーを含む) についてポートフォリオ*6を通じて可視化する。 (学修成果の可視化)</p> <p>①-6 上記の教育改革を進めつつ、その検証と学生並びに社会ニーズの動向を適宜把握し、学部学科のあり方を検討する。</p>	<p>2-(1)-2 留学生及び社会人受入れ体制について、国際連携推進委員会及びワーキンググループで協議を進め、計画立案に向けた基本的な事項を整理するとともに、基本計画の素案を作成する。</p> <p>(2) 教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 学部教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 特色ある教育システムの確立</p> <p>①-1 新カリキュラム (幅広い理工系素養と数理情報系スキルの活用力を修得する科目編成) を継続して適用するとともに、令和3年度に文部科学省から認定された数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (リテラシーレベル) 並びに令和4年度に採択された同プログラム (応用基礎レベル) を令和5年度入学者にも適用する。</p> <p>①-2 ①-3 一つの分野を重点的に、または各分野を融合的に学修できるカリキュラムを令和5年度入学者に対しても適用し、合わせてガイダンス等でカリキュラムマップ*4による履修の流れを説明する。</p> <p>①-4 教育内容の質保証を行うため、各科目のシラバス*5に学生が獲得すべきコンピテンシー*6項目 (学修成果評価項目、9項目) とその割合・評価方法を明示する。</p> <p>①-5 e-ポートフォリオ*7による学修成果の可視化について、これまで実施してきた結果を分析するとともに、本格運用に向けた取組を行う。</p> <p>①-6 幅広い基礎的学力と数理情報系スキルの修得、専門分野における融合的な理工学の知識と実践的な技術の修得を目的とした新カリキュラ</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>9-(1)-ア-1、2を参照。)</p> <p>○ 計画どおりに実施した。(詳細は、前記の「エ」を参照。)</p> <p>○ 令和5年度入学者にも、新カリキュラム及び数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを適用した。</p> <p>○ 本学の数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (リテラシーレベル・応用基礎レベル) の最大の特徴は、プログラムを構成する科目がすべて必修という点であり、卒業時に全学生がリテラシーレベル及び応用基礎レベルの両レベルのプログラムを修了することとなる。令和6年3月末時点でのプログラムの修了者数 (令和3年度以降の入学者) はリテラシーレベルが711名、応用基礎レベルが228名となった。</p> <p>○ 分野を重点的または融合的に学修できるカリキュラムを令和5年度入学者にも適用した。</p> <p>○ カリキュラムマップによる履修の流れについては、4月開催のガイダンスで説明した。</p> <p>○ 各科目のシラバス (4月配付) に、学生が獲得すべきコンピテンシー項目とその割合・評価方法を明示した。</p> <p>○ e-ポートフォリオを本格運用し、これまで蓄積してきた学生の学修成果データの分析、可視化を行い、各科目において定められた学修目標に対する学生の達成状況の傾向把握を可能にした。</p> <p>○ この教育成果を活用し、各科目の教育手法の見直し等を行うため、教育改善のPDCAサイクルを構築した。</p> <p>○ 新カリキュラムについては、令和5年度入学者にも適用した。</p> <p>○ IR委員会 (委員長:学長) 及びタスクグループにおいて、</p>

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績
	<p>② 社会人基礎力及び学び続ける力の育成</p> <p>②-1 言語リテラシー（日本語運用）科目を新設し、学生の日本語運用能力の向上を図る。</p> <p>②-2 1年次に地域を題材として学ぶ科目（「千歳学」及び「地域課題プロジェクト」）を履修することで、早くから社会との関わりを通じた意識付けを図り、問題解決に取り組む主体性やチームで物事を進める協働性等、人間力を高め、生涯にわたって学び続ける力が身に付くよう教育する。</p> <p>③ 教育内容の充実</p> <p>③-1 学部共通基盤系科目を中心にグループワーク及びICT*7を活用した授業を推進し、全学的に拡大を図る。</p> <p>③-2 上記の推進にあたり、PC教室、ラーニング・commons*8の整備及び情報機器やネットワークなどICT環境の整備のため更新計画を策定する。</p>	<p>ムを令和5年度以降の入学にも適用し、運用する。また、学修支援や学部学科のあり方については、学長のリーダーシップのもと、IR委員会*8やタスクグループで、教育運営に必要な様々なデータの収集や分析結果に基づく検討を行い、文部科学省が求める「学習者本位の教育」を踏まえ、随時見直しを図る。</p> <p>② 社会人基礎力及び学び続ける力の育成</p> <p>②-1 新カリキュラムに基づき、言語リテラシー*91及び言語リテラシー2の2科目を必修科目として開講し、日本語運用能力の向上を図る。</p> <p>②-2 1年次に、地域を題材として問題解決能力やチームで物事を進める協働性等を培うための科目となる「千歳学」と「地域課題プロジェクト」*10を開講する。なお、「地域課題プロジェクト」については、新棟に設置したラーニング・commons*11等で実施する。</p> <p>③ 教育内容の充実</p> <p>③-1 新カリキュラムに基づき、グループワーク及びICT*12を活用した授業の充実を図る。</p> <p>③-2 新棟に新設したラーニング・commonsの有効利用を図るとともに、令和2年度に策定した更新計画に基づきラーニングスペース（10周年記念棟2F）の環境整備を行う。また、図書館の環境も充実する。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>授業評価アンケート、学科配属・新カリキュラムに関するアンケート調査及び成績情報等のデータ収集・分析を行い、この結果を企画連絡会議に報告し、同会議で成績評価基準の方針を検討するなど、「学習者本位の教育」を踏まえた教育改善の取組を行った。</p> <p>○ 文部科学省の「大学・高専機能強化支援事業」の申請に当たり、大学院教育との連動を図るため、学部における「DXプログラム（副専攻）」の設定を検討し、令和6年2月開催の理事会及び各審議会に報告するとともに、将来的な学部・学科のあり方についても検討した。</p> <p>○ 言語リテラシー1及び言語リテラシー2の2科目を必修科目として開講し、日本語運用能力の向上を図った。</p> <p>○ 入学者の語学力のレベルを把握し、レベル別のクラス分けを行い、その語学力に合った授業を展開し、語学力の一層の向上を図ることを目的に、令和6年度予算において、入学者に対する語学の「プレースメントテスト」の実施経費を計上した。</p> <p>○ 「千歳学」と「地域課題プロジェクト」を開講した。</p> <p>○ 「地域課題プロジェクト」については、情報棟のラーニング・commons等を活用し、グループワークや課題解決型学習を実施した。</p> <p>○ グループワークによる授業は、旧カリキュラムで1科目減少、新カリキュラムで1科目増加（「千歳学」）した。</p> <p>○ ICTを活用した授業方法のあり方については教授会に諮り、一定の運用基準を定めた上で、対面型のほかにオンライン型、ハイブリッド型及びオンデマンド型の3タイプの授業方法で実施し、授業形態の充実を図った。</p> <p>○ ラーニング・commonsの有効利用については、前記の②-2を参照。</p> <p>○ 環境整備については、ラーニングスペースでBYOD端末を利用した学修を可能にする電源タップとWi-Fi接続プリンターの整備（4月）、また図書館では貸出可能な照明器具や電源タップの整備を行った（4月）。</p>

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績
<p>イ 大学院教育に関する目標</p> <p>理工学における高度な教育研究を通して、高い専門性を有し、広範囲な知識に基づく総合的に裏打ちされた人材の育成を目指す。</p> <p>前期課程では、理工学の専門分野における知識と幅広いスキルを身に付け、科学技術の課題解決に対する意識を持ち、十分なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力のある理系職業人の育成を目指す。</p> <p>後期課程ではさらに、専門分野における先端的な研究開発活動の経験を十分に積み、研究開発機関等において柔軟性をもって先導的な役割を果たせる人材の育成を目指す。</p>	<p>③-3 全科目を対象に、教職員向けの授業公開を定期的に行い、授業改善を推進する。</p> <p>以上、学部教育に関する目標を達成するため、数理情報系など学部共通科目担当教員及び情報セキュリティなど専門科目担当教員等の教職員増による体制強化を実現する。</p> <p>イ 大学院教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 高い専門性を涵養するため、実験や解析を中心とした高度な研究活動を指導する体制を整える。</p> <p>② 学部の新カリキュラムに連動して、新カリキュラム編成を行い、大学院における研究のペースとなるデータ分析等数理情報活用にかかわる科目や、学部で学んだ専門領域外の実験科目の配置により、広範囲の知識に基づく総合力が身に付くよう指導する。</p> <p>③ 科学技術の課題解決に対する見識と専門技術を培うために、製品開発や知的財産に関する学際系科目*9を配置する。</p> <p>④ コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を涵養するため、研究成果の積極的な学会等への発表、特に英語での発表を指導し、英文要旨を大学紀要等に掲載する。</p> <p>⑤ 後期課程では卒業後に研究機関等において、柔軟性をもって先導的な役割を果たす能力を培うために、異分野の主査、副査教員が連携した指導体制を整える。</p> <p>⑥ 大学院進学率の増加を図るとともに、進学希望者の推移をみながら、組織・体制の充実案を検討する。</p>	<p>③-3 授業改善に向け、FD委員会*13の開催及び教職員向けの授業公開を実施する。</p> <p>イ 大学院教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 高度な研究活動を指導する体制、さらには高度な技術的課題の解決力を養成できるカリキュラムの検討を行うとともに、指導体制の整備に着手する。</p> <p>②、③ 大学院における新カリキュラム案の作成に取り組む。</p> <p>④ 博士前期課程学生に対して、英語によるプレゼンテーションの指導を強化し、学会等での口頭発表を督励する。また、学位論文の英文要旨を大学紀要*14等に掲載する。</p> <p>⑤ 博士後期課程学生の指導において、異分野の教員を加える体制等を引き続き維持する。</p> <p>⑥ 大学院進学率の増加に対処するため、令和4年度に検討した内容に基づき、大学院の組織・体制等の充実を図る。</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>○ FD委員会を7回開催するとともに、教職員向けの授業公開を6月及び11月に実施し、授業改善の推進を図った。</p> <p>○ カリキュラムの検討を10月から令和6年1月まで行い、高度情報専門人材の育成に資するコース設定なども検討し、体制整備を行うこととした。</p> <p>○ この実現に向けて、文部科学省の「大学・高専機能強化支援事業（支援2）」の活用（採択結果は令和6年7月に公表予定）を目指すこととし、高度情報専門人材（博士前期課程定員増など）の育成や教員体制の強化を図ることとした。</p> <p>○ 文部科学省の「大学・高専機能強化支援事業」を活用して、高度情報専門人材とDX人材の育成に取り組むカリキュラム内容の方針を検討し、令和7年度カリキュラムから施行する準備を整え計画で文科省申請を行った。これに併せ、学部のカリキュラムの変更（学部DXプログラム：副専修）も検討した。</p> <p>○ 大学院生全員（69名）に対し、4月の履修ガイダンスにおいて、語学系の科目「English Presentation Skill」の履修を督励し、19名が履修した。</p> <p>○ 大学院博士前期課程修士論文発表会において、学位論文の要旨を英語発表することを義務付け、英文要旨を大学紀要に掲載した。</p> <p>○ 副査教員に、学外教員または他学科教員を配置する体制を維持した。この結果、博士後期課程学生3名に対し、4名の学外教員及び他学科教員を配置した。</p> <p>○ 新たに、文部科学省の「大学・高専機能強化支援事業」を活用（採択結果は令和6年7月に公表予定）し、大学院の教育研究体制（教員数の増加及び新規の施設・設備整備）の強化・</p>

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績																																										
	<p>【指標】</p> <p>2-(2)-1 学部及び大学院における新カリキュラムの実施及びカリキュラムマップを全学科及び研究科単位で作成（カリキュラムマップの作成は、平成31年度及びカリキュラム変更の都度行う。）</p> <p>2-(2)-2 専任教員 ST 比*¹⁰（常勤教員 1 人当たり学生数の割合）を本中期計画期間中に収容定員に対して 19 以下とする。</p> <p>2-(2)-3 研究科博士前期課程の大学院生の英語による学会等への発表実績を本中期計画期間中に100%にする。</p> <p>2-(2)-4 本学の大学院への進学率を本中期計画期間中に卒業生の10%以上にする。</p>	<p>【指標】</p> <p>2-(2)-1 学部における新カリキュラムを継続的に実施するとともに、大学院における新カリキュラム案の作成に取り組む。また、学生支援・教育センター教員等が履修対象者に対し、学部及び大学院のカリキュラムマップを活用しながら、各科目の関連性について説明する。</p> <p>2-(2)-2 専任教員 ST 比*¹⁵（常勤教員 1 人当たり学生数の割合）を収容定員に対して 20 以下とする。</p> <p>2-(2)-3 博士前期課程科目「English Presentation Skill」の履修等を推奨し、学会等での発表実績を博士前期課程学生の 80%以上を目指す。</p> <p>2-(2)-4 キャリア進路ガイダンスでの大学院進学への推奨、大学院学生による進学体験談の講演など、本学の大学院への進学誘引策を講じ、進学者数を中期計画に定める「卒業生の 10%以上」にする。</p>		<p>充実を目指すこととした。</p> <p>B ○ 学部の新カリキュラムについては、前記のア-①-2 及び 3、大学院の新カリキュラムについては、前記の①、②、③を参照。</p> <p>○ 各科目の関連性について、学生支援・教育センター教員等が履修対象者に対し、学部及び大学院のカリキュラムマップを活用しながら、1年生の秋学期の履修ガイダンスで説明を行った。</p> <p>A ●専任教員 ST 比</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R 元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24.6</td> <td>22.4</td> <td>21.9</td> <td>20.6</td> <td>20</td> <td>19.8</td> <td>19</td> </tr> </tbody> </table> <p>A ○ 学会等での発表実績については、令和4年度入学者（令和5年度卒業）において、100%を達成した。</p> <p>A ●卒業生の本学大学院への進学率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R 元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11.0%</td> <td>13.6%</td> <td>12.0%</td> <td>14.6%</td> <td>10%</td> <td>22.2%</td> <td>10%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 4月、6月、10月に開催したキャリア進路ガイダンスで、大学院生による進学体験談の発表等を行い、本学の大学院への進学を誘引した。</p> <p>B ○ 研究体制、教員の新規採用及び人員配置の見直しについては、前記の⑥を参照。</p> <p>○ サバティカル制度など学外での研鑽のあり方については、令和6年2月に開催した企画連絡会議（委員長：学長）で、本学と規模の類似する理工系大学の調査結果をまとめ、次年度に制度設計する方向で検討を進めた。なお、研究費の繰越や制度利用教員の講義等の代替などに課題があることを確認した。</p> <p>A ○ 本学が主催する CIF23（9月開催、参加者 111名）では、「先端半導体と人工知能が拓く複雑化情報社会を探る」を主要テーマに、基調講演としてラビダス(株)清水氏、また招待講演として国立台湾大学、NTT 先端集積デバイス研究所、神戸大学から</p>	R 元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	24.6	22.4	21.9	20.6	20	19.8	19	R 元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	11.0%	13.6%	12.0%	14.6%	10%	22.2%	10%
R 元	R2	R3	R4	R5		R6																																								
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																																								
24.6	22.4	21.9	20.6	20	19.8	19																																								
R 元	R2	R3	R4	R5		R6																																								
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																																								
11.0%	13.6%	12.0%	14.6%	10%	22.2%	10%																																								
<p>(3) 研究に関する目標</p> <p>研究実績豊富な教員の確保及び若手研究者の育成を行うとともに、多様な研究テーマの発掘や共同研究の推進、科学研究費助成事業*²等の競争的外部資金*³の獲得に取り組み、研究活動の向上を目指す。</p> <p>※2 文部科学省及び独立行政法人日本学術振興会が実施する助成事業</p> <p>※3 客観的かつ厳正な審査を経て選択的に配分される学外の研究資金</p>	<p>(3) 研究に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 研究ポテンシャルの向上に向けて、研究科における専攻の見直しを含む研究体制と新規採用、人員配置の見直しを行う。併せてサバティカル制度*¹¹等、学外での研鑽のあり方を検討する。</p> <p>イ 外部機関との交流や国際学会、研究会の開催を行うとともに、産学官金連携を深め、共同研究や受託研究の実績向上に向けた施策を立案する。</p>	<p>(3) 研究に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 研究体制、教員の新規採用及び人員配置の見直しについて検討を進める。また、サバティカル制度*¹⁶など学外での研鑽のあり方について調査を継続するとともに、制度導入に向けた課題等を整理し、検討を始める。</p> <p>イ 共同研究や受託研究の実績向上を図るため、外部機関との交流や国際学会、国際フォーラム（CIF）等を主催・共催するとともに、技術系展示会・講演会への参加、さらには地域連携センターに構築する連携ネット</p>																																												

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績														
	<p>ウ 学内研究プロジェクトの設定など、学長のリーダーシップの下に研究費の配分を可能とする制度設計を行う。</p> <p>エ 科研費^{*12}など競争的外部資金^{*13}導入促進のための教員への情報提供、提案の拡充、科研費提案書の書き方講座の開催等、研究支援体制を充実する。</p> <p>オ 研究環境整備を行うための必要な研究施設・機器等の状況を把握し、更新整備計画を策定する。</p> <p>カ 地域との連携を図る『スマートネイチャーシティちとせ(Smart Nature City ちとせ)』(以下「SNC」という。)^{*14}構想を具体化する研究課題を発掘する。</p>	<p>ワークの活用を推進する。また、地域連携センターで共同研究等の実績を向上させる施策を検討する。</p> <p>ウ 研究への取組を支援するとともに、学外研究費を獲得するため、学長のリーダーシップのもとで研究費を配分する制度を継続運用する。</p> <p>エ 競争的外部資金^{*17}導入を促進するため、教員に情報提供を行うとともに、応募申請書の書き方や添削等に関する学内研修会を開催するなど、研究支援体制の充実を図る。</p> <p>オ 学内の研究施設・機器等の状況を把握し、新たな更新整備計画の策定に着手する。</p> <p>カ 地域連携センターに構築する連携ネットワーク等を活用し、SNC構想^{*18}を具現化する研究課題を発掘する。</p>	<p>自己評価</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>研修者を招き、北海道大学、室蘭工業大学、北見工業大学及び道内4高専、本学からの発表者もすべて英語で発表を行い、併せて、交流会も開催した。</p> <p>○ ラピダス(株)の進出を契機に、半導体関連の技術研究、人材育成等を目的に、令和6年4月に、<u>シリコンリサーチセンター(CSR)</u>を設置し、共同研究・受託研究の実績向上も目指すこととした。</p> <p>○ 技術系展示会・講演会の参加については、下記の3-(2)-ア-①及び【指標】3-(2)-2、また地域連携センターの実績は下記の【指標】3-(2)-1を参照。</p> <p>○ 地域連携センターにおける共同研究等の実績を向上させる施策については、下記の力を参照。</p> <p>○ 研究への取組の支援については、下記のエを参照。</p> <p>○ 科研費獲得のために、<u>教員17名(前年度13名)</u>に対し、学長が特別研究費を配分した。</p> <p>○ 競争的外部資金の応募申請に関する情報提供については、メールやポータルサイトを通じて、教員に22回(前年度50回)実施するとともに、応募申請書の書き方研修を9月に開催した。</p> <p>○ 新たな共通機器更新整備計画の見直しは、令和3年度に実施した。</p> <p>○ 共通機器利用委員コアメンバー会議を令和6年2月に開催し、共同利用実験室の管理者に対し、同室内に設置している機器の更新時期の確認を依頼した。</p> <p>○ SNC構想を具現化する研究課題<u>12件(前年度10件)</u>を発掘した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>NO.</th> <th>研究テーマ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>千歳地域でのワーケーションが作業者の創造性に及ぼす効果</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>先端半導体研究と半導体エンジニア教育の整備に向けた基盤的研究</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>野菜の非破壊的鮮度測定バイオセンサーの開発</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>量子技術研究の体験学習(光子ひとつを測定しよう)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>情報通信技術(ICT)による生態系データ収集環境の変革(DX)に関する研究</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>DXを用いた千歳周辺の遺産の可視化、情報発信及びデジタルリソースの有効利用に関する研究 -支笏湖デザインプロジェクト-その2</td> </tr> </tbody> </table>	NO.	研究テーマ	1	千歳地域でのワーケーションが作業者の創造性に及ぼす効果	2	先端半導体研究と半導体エンジニア教育の整備に向けた基盤的研究	3	野菜の非破壊的鮮度測定バイオセンサーの開発	4	量子技術研究の体験学習(光子ひとつを測定しよう)	5	情報通信技術(ICT)による生態系データ収集環境の変革(DX)に関する研究	6	DXを用いた千歳周辺の遺産の可視化、情報発信及びデジタルリソースの有効利用に関する研究 -支笏湖デザインプロジェクト-その2
NO.	研究テーマ																	
1	千歳地域でのワーケーションが作業者の創造性に及ぼす効果																	
2	先端半導体研究と半導体エンジニア教育の整備に向けた基盤的研究																	
3	野菜の非破壊的鮮度測定バイオセンサーの開発																	
4	量子技術研究の体験学習(光子ひとつを測定しよう)																	
5	情報通信技術(ICT)による生態系データ収集環境の変革(DX)に関する研究																	
6	DXを用いた千歳周辺の遺産の可視化、情報発信及びデジタルリソースの有効利用に関する研究 -支笏湖デザインプロジェクト-その2																	

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績
<p>市との絆を強めることができるよう支援を行う。</p>	<p>② 就職支援・キャリア教育の充実を図るため、次の施策を実施する。</p> <p>②-1 幅広い分野のインターンシップ受入れ企業拡大に向けた活動を行う。</p> <p>②-2 キャリアアドバイザーによる就職相談・助言等の就職支援体制を充実する。</p>	<p>①-2 令和4年度から再開した食堂の営業を維持するとともに、売店の充実化を検討する。</p> <p>② 就職支援・キャリア教育の充実を図るため、次の施策を実施する。</p> <p>②-1 インターンシップの受入れ企業拡大に向け、前年度に実施した各企業等の意向調査及び学生の意識調査の結果をもとに、将来のキャリアに繋がると期待できる業界への企業訪問等を展開する。</p> <p>②-2-a 就職活動を行っている学生及び活動が停滞している学生の状況を把握しながら、キャリアアドバイザーによる積極的かつ適切な支援を展開する。また、インターンシップ参加希望学生をキャリアアドバイザーにつなぎ、助言を行う。</p> <p>②-2-b キャリア教育を強化する取組の一つとして、学部1・2年生からのインターンシップ実施、さらにはインターンシップ参加を促すガイダンスの開催やその内容について検討を行う。また、2・3年生に実施したアンケート調査結果も踏まえ、1・2年生から3・4年生にかけて体系的な学修内容となるよう、各科目の内容や配当学年について担当教員及びキャリアセンター教員による検討を引き続き行う。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>○ 前記の学生ニーズを把握したことにより、令和6年度予算に、トレーニングルーム(4,921千円)や弓道練習場(2,000千円)の整備費などを計上し、例年よりも手厚い対応を行った。</p> <p>○ 食堂の営業を維持したほか、売店については学生からの要望が多かったキャッシュレス決済を導入(整備費1,088千円)し、学生の利便性向上を図った。</p> <p>○ 令和4年度に実施した「企業との情報交換会」や「学内業界研究セミナー」に参加した企業に対して、インターンシップ受入れ意向に関する調査を実施し、その結果をもとに117事業所に受入れの依頼を行ったほか、企業訪問等を通じて新規に開拓した3事業所を含む97事業所(前年度83事業所)が受入れ可能となった。</p> <p>○ 就職活動状況については、キャリア支援課による学生への電話やメールなどを活用した個別の連絡のほか、各研究室の教員に協力を依頼し、把握に努めた。</p> <p>○ 就職活動が停滞している学生には、キャリアアドバイザーとの個別面談の機会などを設定し、活動の促進を図るための進路選択や受験可能な企業とのマッチングなどの支援を行った。</p> <p>○ インターンシップについては、各種の企業企画によるインターンシップ関連情報をポータルサイトで発信するとともに、キャリアアドバイザーによる低学年向けの就職相談では、インターンシップ参加の心得・意義などについて、適宜、アドバイスをを行った。</p> <p>○ 1・2年生にインターンシップ関連情報を提供し、参加希望者に対しては事前指導を行い、また企業とのマッチングができた者については試行的にインターンシップに参加させた。(2年生1名：道内企業)</p> <p>○ 体系的な学修内容となるような科目の配当及び内容などについて、担当教員及びキャリアセンター教員による検討を行い、次期カリキュラムの検討項目に位置づけることを確認した。</p>

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績
	<p>③ 起業マインドを持った卒業生・在校生の育成・支援を図るため、起業した卒業生等の講話や起業に必要な知識を習得する機会を設定する。</p> <p>イ 卒業生への支援に関する措置</p> <p>① 継続的に卒業生調査を実施し、SNSや研究室のネットワークの活用などにより卒業生のネットワーク強化を図る。</p>	<p>②-2-c 学部の1・2年生には、早い段階から就職を意識させるため、キャリアアドバイザーによる就職相談・助言についての機会設定を積極的に行い、支援体制の充実を図る。また、大学院博士前期課程の学生に対しても、キャリア志向を意識させる就職相談・助言等を行う。</p> <p>③ 起業マインドを持った卒業生・在校生の育成・支援を図るため、次の施策を実施する。</p> <p>③-1 学部の1・2年生を対象に、起業への興味・関心度についてのアンケート調査を行い、起業マインドを育成するための機会創出に役立つ。</p> <p>③-2 起業に必要な知識習得を目的とするセミナーや起業した卒業生の講話を実施する。このほか、セミナー等の参加者にアンケート調査を行い、次年度の実施内容を検討する。</p> <p>イ 卒業生への支援に関する措置</p> <p>① 卒業生のネットワーク強化を図る。</p> <p>①-1 各研究室のネットワークを活用し、卒業生が相互に交流できる機会の提供について調査・検討を行い、卒業生のネットワーク交流の促進を図る。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>○ 学部1・2年生に対し、ポータルサイト等でキャリアアドバイザーによる就職相談・助言についてのPRを行い、キャリアアドバイザーの利用（利用者6名）を促した。</p> <p>○ キャリアアドバイザーについては、学生が相談したい時に利用できない状況であったため、<u>キャリアアドバイザーの2名増員及び面談枠を1日当たり1枠増加</u>して6回実施するなどの体制強化を行った。</p> <p>○ 大学院博士前期課程の学生に対しては、<u>アセスメントテスト</u>を通じて、定期的な相談につなげることとし、学生に自身のキャリアの意識付けを行った。</p> <p>○ 1・2年生の授業科目である「キャリア形成A2」及び「キャリア形成B2」を履修している学生のほか、未履修の2年生も加えて、起業への関心について、アンケート調査を実施した。 【アンケート結果】</p> <p>①1年生：関心があると回答した者（33.3%）、関心がないと回答した者（46.8%）であった。起業に関するイメージについては、「ハイリスク・ハイリターンなイメージ」「自分で創り上げて向上させていくことに魅力を感じる」との回答であった。</p> <p>②2年生：関心があると回答した者（21.2%）、関心がないと回答した者（56.4%）であった。起業に関するイメージについては、「自分たちの力で新しいことにチャレンジできる」「時間的・金銭的なリスクが大きい」との回答であった。</p> <p>○ 起業に必要な知識習得を目的とするセミナーを、11月に開催した（講師：北海道中央葡萄酒株式会社 代表取締役 三澤計史氏）。</p> <p>○ セミナー参加者にアンケート調査を行い、「起業することに対して、恐怖や不安などはどれくらいあったのか」など、マインドに関する質問があり、次年度のテーマにすることを検討した。</p> <p>○ 卒業生が相互に交流できる機会の提供として、情報システム工学科の1研究室のネットワークを活用して、研究室のOB・OG会を10月に実施した。</p> <p>○ 卒業生が、自分のスキル・知識を持って仕事ができていること、自分の好きな環境・職場で働いていることなどが把握でき、次年度は、他学科の研究室でも実施することを検討した。</p>

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績																					
	<p>② 同窓会の組織強化及び活性化に向け支援する。</p> <p>②-1 定期総会その他、親睦を図るためのイベント等の企画・実施、学内情報や千歳市のトピックを含めた情報を発信していくための支援を行う。</p> <p>②-2 支部の設立及び活動を支援する。</p> <p>【指標】 2-(4)-1 インターンシップの千歳市の受入れ事業所数を、年40事業所以上とする。</p>	<p>①-2 卒業生とのネットワーク構築に向け、令和3年度卒業生が就職した企業に対して在籍状況調査を行い、強化策の検討に活用する。</p> <p>② 同窓会の組織強化及び活性化に向け支援する。</p> <p>②-1-a 同窓生と教員及び在学生在が交流する機会を設定するとともに、交流会参加者に対するアンケート調査を行い、次年度の同窓会活動等を検討する。</p> <p>②-1-b 同窓会会員に学内情報や千歳市のトピック情報を発信するとともに、発信内容等に関するアンケート調査を行い、情報発信の充実を図る。</p> <p>②-2 関東方面での支部設立、会員相互が交流できる機会の設定など、準備委員会の活動を支援する。</p> <p>【指標】 2-(4)-1 インターンシップの千歳市内の受入れ事業所数を年37事業所以上にする。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>○ 令和4年3月までに卒業した全卒業生の就職先154社に対して、在籍状況調査を実施し、52社から回答(回答率33.8%)を得た。</p> <p>○ 個人情報保護の観点から、回答を得られなかった企業があったことから、状況把握の強化に向け、今後の調査方法・内容について検討を進めることとした。</p> <p>○ 令和6年3月、同窓生(1名)と教員(3名)及び在在学生(4名)が交流する機会を設け、同窓会から支給された助成金の用途及び活動報告を行った。</p> <p>○ 交流会参加者にアンケート調査を実施し、次年度は、同窓会による在在学生への支援拡充について、検討することとした。</p> <p>○ 同窓会会員への情報提供として、本学ホームページ上の同窓会ページに「本学と千歳市の取組」をリンクさせ、地域連携センターが実施するタウントークやオープンサイエンスパークの情報を発信した。</p> <p>○ 本学ホームページ上の同窓会ページにアンケートフォームを設け、「本学や千歳市について知りたい情報」や「同窓生が本学を訪れる契機となるイベント」などの項目を設定した。また、アンケートに対する回答は、役員会や総会等における検討項目とした。</p> <p>○ 令和6年1月、次年度の活動について役員内で意見交換を行い、次年度に関東近郊在住者や教員との懇親会を東京都で開催(時期:「企業との情報交換会」終了後)することになった。また、新卒で関東方面に就職することになった後輩との交流会の実施についても検討し、実施する場合の経費管理やイベント運営などについて、可能な支援を行うこととなった。</p> <p>B ●インターシップの市内受入れ事業所数</p> <table border="1" data-bbox="2190 1507 2807 1667"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30社</td> <td>30社</td> <td>32社</td> <td>34社</td> <td>37社</td> <td>35社</td> <td>40社</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 業務の都合により、例年受け入れている企業の一部から、急遽、インターシップの受入れ見送りが発生したため、目標達成率は94.6%になった。</p> <p>○ インターンシップ受入れ可能な35事業所の内、18事業所に27名の学生が参加した。</p>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	30社	30社	32社	34社	37社	35社	40社
R元	R2	R3	R4	R5		R6																			
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																			
30社	30社	32社	34社	37社	35社	40社																			

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績																					
	2-(4)-2 就職希望者就職率は、毎年 100%を目指す。	2-(4)-2 就職希望者の就職率 100%を目指す。	A	<p>就職希望者の就職率</p> <table border="1" data-bbox="2190 268 2807 428"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>99.3%</td> <td>98.0%</td> <td>97.1%</td> <td>98.4%</td> <td>100%</td> <td>98.4%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 就職率は学部が 98.2%、大学院が 100.0%であった。</p> <p>○ 学部生については、就職未決定の学生と個別に対応するなどの支援を行ったが、就職活動よりも学業（卒業）を優先する学生がいたことから、就職決定者は 163 名（就職希望者 166 名）となった。なお、大学院の就職決定者は 25 名であった。</p>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	99.3%	98.0%	97.1%	98.4%	100%	98.4%	100%
R元	R2	R3	R4	R5		R6																			
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																			
99.3%	98.0%	97.1%	98.4%	100%	98.4%	100%																			

公立大学法人公立千歳科学技術大学 令和5年度計画 業務実績報告(項目3)

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績
<p>3 地域社会等との連携・協力に関する目標</p> <p>(1) 地域の知の拠点としての取組に関する目標</p> <p>ア 地域貢献の充実に関する目標 子どもを対象とした理科実験事業や幅広く市民を対象とした生涯学習の場の提供をはじめ、教育、国際交流、産学連携等、様々な分野における地域のニーズに応じた事業の充実を目指す。</p> <p>イ 地域連携・地域課題の解決に関する目標 科技大が有する人材と知恵を千歳のまちづくりに展開し、市及び市内の各種団体、企業等と連携して様々な分野における地域課題の解決に向けた取組を行い、地域の発展に寄与する。</p>	<p>3 地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 地域の知の拠点としての取組に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 地域貢献の充実に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 大学の情報発信活性化を図るため、理科実験授業や公開講座等の市民向けイベントの内容、規模等について、市民のニーズに合ったイベントを企画、開催する。</p> <p>② 教職員の学会活動や人脈を利用して、地域外の専門家や有識者と市民が交流する機会を提供する。</p> <p>イ 地域連携・地域課題の解決に関する目標を達成するための措置 SNC構想をもとに、魅力ある地域創成に資する知的拠点を形成し、まちづくりの支援を図るため、次のことを実施する。</p> <p>① SNC構想の推進と、地域の課題に対応する組織として地域連携センターを設置し、技術的課題の把握及び解決に向けた支援を担当するコーディネーターを配置する。</p> <p>② 地域の連絡調整を協議するための連携ネットワークを構築する。</p>	<p>3 地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 地域の知の拠点としての取組に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 地域貢献の充実に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 「理科工房」*²⁰による小中学生向けの理科実験授業や広く市民を対象とした公開講座を開催するほか、地域連携センター主催による講演会等も実施する。さらには、市民ニーズに合致した公開講座等を開催するため、公開講座や講演会等の参加者に対するアンケート調査を行い、事業の充実を図る。</p> <p>② 地域外の専門家や有識者と市民が交流する機会を提供するため、SNC コンファレンス等において、市民向けの特別講演会の開催やポスター展示等を行う。</p> <p>イ 地域連携・地域課題の解決に関する目標を達成するための措置 SNC 構想をもとに、魅力ある地域創成に資する知的拠点を形成し、まちづくりの支援を図るため、次のことを実施する。</p> <p>① 地域連携センターにおいて、SNC 構想を推進するとともに、技術的課題の把握、地域の課題を調査する産学官連携コーディネーターを配置する。</p> <p>② 地域連携センターが設置する「連携ネットワーク会議」を通じて、地域課題の解決に取り組む。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>○ 「理科工房」による理科実験授業を 77 回（前年度 65 回）実施したほか、市民を対象にした公開講座を 3 回（前年度 3 回）、地域連携センター主催の「SNC オープンサイエンスパーク」を 1 回（前年度 1 回）開催した。</p> <p>○ 公開講座等の参加者を対象にしたアンケート調査を実施し、参加者の 93.6%が「満足した。」との回答であった。</p> <p>○ 地域連携センター主導のもとで、市内 3 高等教育機関（北海道千歳リハビリテーション大学、日本航空大学校北海道及び本学）による「サイエンスカフェ」（ポスター展）を 9 月 1 日から 8 日の間、千歳市民文化センター（市民ギャラリー）で実施した。</p> <p>○ 地域連携センターが、市民を対象とする「SNC コンファレンス」を令和 6 年 1 月に開催し、行政、企業、市民団体から 27 名が参加し、本学の研究紹介などを行った。</p> <p>○ 地域連携センターに寄せられる地域からの相談については、当初、教育研究・支援課長が対応し、令和 6 年 2 月から、専任の産学官連携コーディネーターを 1 名配置し、年間実績としては 52 件（前年度 45 件）の相談に応じた。</p> <p>○ 令和 6 年 2 月、千歳市、千歳商工会議所、千歳観光連盟、北海道千歳リハビリテーション大学、日本航空大学校北海道など 15 機関で構成する「連携ネットワーク会議」をオンラインで開催し、各構成団体の活動状況報告や連携ネットワーク内の団体間との取組等について報告を行った。</p> <p>○ 実施後のアンケート調査では、「対面での連携ネットワーク</p>

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績																																																																										
	<p>【指標】</p> <p>3-(1)-1 公開講座の内容の満足度を年平均75%以上にする。</p> <p>3-(1)-2 SNC推進活動の一環として市・企業等との情報交流会を本中期計画期間中に年4回以上とする。</p>	<p>【指標】</p> <p>3-(1)-1 公開講座の際に実施するアンケート調査結果において、受講者の満足度の年平均を中期計画に定める「75%以上」にする。</p> <p>3-(1)-2 千歳市と情報交換を行うとともに、千歳工業クラブやPWC*²¹と連携した情報交流会の開催を中期計画に定める「年4回以上」行う。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>会議の開催を望む」意見が多くあり、次年度は対面での開催を決定し、会議の充実を図ることとした。</p> <p>●公開講座満足度の実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.0%</td> <td>93.0%</td> <td>98.3%</td> <td>96.0%</td> <td>75%</td> <td>93.6%</td> <td>75%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○公開講座の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル生物学のすすめ（6月開催、講師：諸橋賢吾教授、28名参加） ・情報通信とコンピュータ（10月開催、講師：山田崇史教授、19名参加） ・数学を使って情報システムを安全に（令和6年1月開催、講師：萩原茂樹准教授、25名参加） <p>●情報交流会開催数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7回</td> <td>6回</td> <td>6回</td> <td>6回</td> <td>4回</td> <td>7回</td> <td>4回</td> </tr> </tbody> </table> <p>○情報交流会の内訳</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>開催</th> <th>内容</th> <th>連携先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>5月2日</td> <td>InterOpto2023における千歳市及び大学のPRについて</td> <td>千歳市産業振興部</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>5月24日</td> <td>第23回千歳国際科学フォーラム（CIF23）における市民参加について</td> <td>PWC</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>8月29日</td> <td>BioJapan2023における千歳市及び大学のPRについて</td> <td>千歳市産業振興部</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>9月14日</td> <td>ビジネス EXPO2023における千歳市及び大学のPRについて</td> <td>千歳市産業振興部</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>12月1日</td> <td>nanotech2024における千歳市及び大学のPRについて</td> <td>千歳市産業振興部</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>12月26日</td> <td>サイエンステクノロジーセミナーについて</td> <td>PWC</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>3月15日</td> <td>産学官における地域連携について</td> <td>千歳工業クラブ</td> </tr> </tbody> </table>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	97.0%	93.0%	98.3%	96.0%	75%	93.6%	75%	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	7回	6回	6回	6回	4回	7回	4回	回	開催	内容	連携先	1	5月2日	InterOpto2023における千歳市及び大学のPRについて	千歳市産業振興部	2	5月24日	第23回千歳国際科学フォーラム（CIF23）における市民参加について	PWC	3	8月29日	BioJapan2023における千歳市及び大学のPRについて	千歳市産業振興部	4	9月14日	ビジネス EXPO2023における千歳市及び大学のPRについて	千歳市産業振興部	5	12月1日	nanotech2024における千歳市及び大学のPRについて	千歳市産業振興部	6	12月26日	サイエンステクノロジーセミナーについて	PWC	7	3月15日	産学官における地域連携について	千歳工業クラブ
R元	R2	R3	R4	R5		R6																																																																								
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																																																																								
97.0%	93.0%	98.3%	96.0%	75%	93.6%	75%																																																																								
R元	R2	R3	R4	R5		R6																																																																								
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																																																																								
7回	6回	6回	6回	4回	7回	4回																																																																								
回	開催	内容	連携先																																																																											
1	5月2日	InterOpto2023における千歳市及び大学のPRについて	千歳市産業振興部																																																																											
2	5月24日	第23回千歳国際科学フォーラム（CIF23）における市民参加について	PWC																																																																											
3	8月29日	BioJapan2023における千歳市及び大学のPRについて	千歳市産業振興部																																																																											
4	9月14日	ビジネス EXPO2023における千歳市及び大学のPRについて	千歳市産業振興部																																																																											
5	12月1日	nanotech2024における千歳市及び大学のPRについて	千歳市産業振興部																																																																											
6	12月26日	サイエンステクノロジーセミナーについて	PWC																																																																											
7	3月15日	産学官における地域連携について	千歳工業クラブ																																																																											

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績																					
<p>(2) 産業の振興に関する目標</p> <p>市内企業等との連携を進め、共同研究や高度な設備・ノウハウの提供を行うとともに、学内発ベンチャー企業や地域産業に有益な人材を育成することで、千歳市の高度技術産業の集積等に寄与する。</p>	<p>3-(1)-3 技術的課題等の相談件数を本中期計画期間中に年10件以上とする。</p>	<p>3-(1)-3 地域からの技術的課題等に関する相談件数を中期計画に定める「年10件以上」にする。</p>	A	<p>●地域連携センター相談件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>33件</td> <td>15件</td> <td>24件</td> <td>45件</td> <td>10件</td> <td>52件</td> <td>10件</td> </tr> </tbody> </table> <p>○コーディネーターが担当した相談内容の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学との連携希望 21件（千歳市及び恵庭市の窓口業務の効率化・DX化に関する連携(石狩振興局)など) ・学生の参加依頼 2件（イベントへの学生協力の要請） ・その他 11件（視察受入れの要請） 	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	33件	15件	24件	45件	10件	52件	10件
	R元	R2	R3	R4	R5		R6																		
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																			
33件	15件	24件	45件	10件	52件	10件																			
<p>3-(1)-4 地域課題の分析及び課題解決に向けた取組促進のための情報を年4回以上発信する。</p>	<p>3-(1)-4 地域課題の分析及び解決に向けた取組促進のための情報発信数を中期計画に定める「年4回以上」にする。</p>	<p>3-(1)-4 地域課題の分析及び解決に向けた取組促進のための情報発信数を中期計画に定める「年4回以上」にする。</p>	A	<p>●地域連携センター情報発信数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>34回</td> <td>29回</td> <td>91回</td> <td>174回</td> <td>4回</td> <td>152回</td> <td>4回</td> </tr> </tbody> </table> <p>○情報発信の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題の分析 95回（SNC コンファレンス「まちなかで始まる地域活性化」についてなど） ・課題解決に向けた取組 57回（千歳市ボランティアセンター主催のボランティア募集など） 	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	34回	29回	91回	174回	4回	152回	4回
R元	R2	R3	R4	R5		R6																			
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																			
34回	29回	91回	174回	4回	152回	4回																			
<p>(2) 産業の振興に関する目標</p> <p>市内企業等との連携を進め、共同研究や高度な設備・ノウハウの提供を行うとともに、学内発ベンチャー企業や地域産業に有益な人材を育成することで、千歳市の高度技術産業の集積等に寄与する。</p>	<p>(2) 産業の振興に関する目標を達成するための措置</p> <p>地域産業との連携を強化して地域課題に対応できる人材の育成と地域産業の振興を図るため、次の施策を実施する。</p> <p>ア PWC^{*15}と連携して産学連携ネットワークを構築し、産学連携の共同研究や地域の産学官連携プロジェクトなど、国や地方自治体等の地域産業振興施策等に参画する活動を積極的・組織的に支援するとともに、地域におけるセミナーの開催や展示会等への参加を積極的に行う。</p>	<p>(2) 産業の振興に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 地域産業との連携を強化し、地域課題に対応できる人材の育成や地域産業の振興を図るため、次の施策を実施する。</p> <p>① PWCが主催する「光テクノロジー応用懇談会」を支援し、「ナノテク2023」などの展示会に参加するとともに、セミナーを開催する。</p> <p>② 千歳市の高度技術産業の集積等に寄与するため、市内の企業等に高度な設備・ノウハウを提供する。</p>	A	<p>○ 令和6年2月、「サイエンステクノロジーセミナー」（旧名称：光テクノロジー応用懇談会）を北ガス文化ホールでPWCと共催し、本学の研究内容などの紹介・PRを行った。（参加者48名）</p> <p>○ 5月開催のInterOpto2023（ブース来場者100名）、10月のBioJapan2023（ブース来場者50名）、11月のビジネスEXP02023（ブース来場者200名）、令和6年1月のnanotech2024（ブース来場者150名）への出展、計4回行った。</p> <p>○ 文部科学省のマテリアル先端リサーチインフラ事業を通じて、レーザ顕微鏡、分光光度計、試料作製装置などの機器を利用した件数は40件（前年度39件）であった。</p>																					

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績																																									
<p>(3) 教育機関との連携に関する目標</p> <p>ア 市内高等教育機関との連携に関する目標</p> <p>市内の高等教育機関の中心となって相互連携を深め、各高等教育機関及び学生の活動の幅を広げることにより、まちの発展に寄与する。</p>	<p>イ 地域企業等と共同で行う研究・教育活動の推進を通して起業マインドを持った人材の育成を図る。</p> <p>ウ 地域連携センターがシンクタンク機能をもてるように、民間企業との共同研究成果等を蓄積して、地域の企業等の課題解決を支援する。</p> <p>【指標】</p> <p>3-(2)-1 地域における研究・教育活動実績を本中期計画期間中に年10件以上にする。</p> <p>3-(2)-2 セミナー、展示等の開催実績を年2回以上とする。</p> <p>(3) 教育機関との連携に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 市内高等教育機関との連携に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 市内の高等教育機関で構成される高等教育連携ネットワークを組織化し、連携のあり方、共同事業について具体的に検討する。</p>	<p>イ 企業との共同研究・教育活動を通じて、学生に起業マインドを意識させる。</p> <p>ウ 地域連携センターがシンクタンク機能の一端を担えるように、研究成果等の蓄積を図るとともに、地域の企業等が抱える課題にも対処する。</p> <p>【指標】</p> <p>3-(2)-1 地域連携センターにおいて実施する主体的な地域プロジェクトや課題解決に向けた取組実績を中期計画に定める「年10件以上」にする。</p> <p>3-(2)-2 研究開発をテーマにしたセミナーの開催や展示会等への出展を各々年1回以上行う。</p> <p>(3) 教育機関との連携に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 市内高等教育機関との連携に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 市内に立地する二つの高等教育機関との連携方策として、まちライブラリーを活用した事業や「まちなか」での活動について協議を行う。</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>○ 9月に情報系研究室3室において、PWC 会員企業3社を招聘して、参加学生31人に対し、起業に関する講話を行い、起業マインドの醸成を図った。</p> <p>○ 学内の教員から申請のあった研究12件に対し、地域連携センターが助成金を交付し、研究成果の蓄積を図った。</p> <p>○ 地域連携センターへの相談内容を基に、SNC 構想を具現化する研究課題に取り組み、令和6年1月には千歳市企画部との協働研究(駅前広場案内板のリニューアル、バス利用時におけるGoogle マップ活用の説明動画作成) 成果を千歳市役所で発表した。</p> <p>●地域における研究・教育活動実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8件</td> <td>14件</td> <td>13件</td> <td>10件</td> <td>10件</td> <td>12件</td> <td>10件</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 取り組んだ研究テーマは、「千歳地域でのワーケーションが作業者の創造性に及ぼす効果」、「先端半導体研究と半導体エンジニア教育の整備に向けた基盤的研究」などである。</p> <p>●セミナー・展示会等開催数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6(目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>セミナーの開催</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td rowspan="2">2回以上</td> </tr> <tr> <td>展示会への出展</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>3回</td> <td>3回</td> <td>4回</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ セミナーの開催、展示会の出展の内訳は、前記のア-①を参照。</p> <p>○ 令和6年1月、地域連携センターが「SNC コンファレンス」を開催し、北海道千歳リハビリテーション大学及び日本航空大学校北海道と「まちなか」での活動について意見交換を行い、「まちなか」での活動については、公開での学生ゼミ発表会の実施、各機関の教育研究内容紹介ポスター・研究機器の展示、公開講座の実施などについて意見が寄せられた。</p>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	8件	14件	13件	10件	10件	12件	10件		R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)	セミナーの開催	-	-	-	1回	1回	2回以上	展示会への出展	4回	3回	3回	3回	4回
	R元	R2	R3	R4	R5		R6																																						
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																																							
8件	14件	13件	10件	10件	12件	10件																																							
	R元	R2	R3	R4	R5	R6(目標)																																							
セミナーの開催	-	-	-	1回	1回	2回以上																																							
展示会への出展	4回	3回	3回	3回	4回																																								

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績
<p>イ その他の教育機関との連携に関する目標</p> <p>高大連携や、他大学との連携に関する体制の整備と情報交換の充実を図ることにより、科技大の教育研究力を向上させる。また、eラーニングによる他の地方公共団体の教育委員会との連携等、教育コンテンツを広く開放することにより、地域の学力向上を目指す。</p>	<p>② 市内学生間のネットワーク形成を促し、市内各種活動への参加を図る。</p> <p>イ その他の教育機関等との連携に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 高大連携の基本的な枠組みの維持・発展のため、eラーニングシステム^{*16}の改善と、その評価を的確に行うしくみを確立する。</p> <p>② これまで進めて来た道内外の大学と連携した教育力向上に関する取組や大学院単位互換制度を基本とする連携、従来の個別大学との連携について、実績の評価を基に、内容の充実を図る。また、新たな大学間連携に積極的に取組む。</p> <p>③-1 eラーニングシステムを基本に市内の小中学生を対象とした学力向上の取組や道内の教育委員会と連携して北海道の特徴である広域分散した環境下における教育の発展充実に資する取組を実施する。</p> <p>③-2 教員免許更新講習などの社会的要請の高い事業については、相当の費用を求めて、大学の人的・知的リソースを提供する。</p>	<p>② 地域連携センターに構築する連携ネットワーク会議等を通じて、市内高等教育機関の学生による市内各種活動への参加を図る。</p> <p>イ その他の教育機関等との連携に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 本学と連携協定を締結している高大連携校を対象にeラーニングシステム^{*22}の改善等について意見を聴取するとともに、今後の高大連携のあり方について検討する。</p> <p>② これまで進めてきた道内外の大学との教育力向上に関する取組や大学院単位互換制度を基本とする連携、さらには従来の個別大学との連携について、実績の評価を行う。また新たな大学間連携についても検討する。</p> <p>③-1 千歳市教育委員会とは市内の小中学生を対象とした学力向上の取組として、また北海道教育委員会とは広域・分散した環境下における教育の発展・充実を図る取組として、eラーニング教育システムの普及・拡大に向けた支援を積極的に行う。</p> <p>③-2 教員免許更新講習など、社会的要請の高い事業についての調査・研究を進め、費用対効果を踏まえながら実施に向けた検討を行う。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>○ 地域連携センター主導のもとで、9月に「サイエンスカフェ」（ポスター展示）を市民ギャラリーで開催し、市内3高等教育機関の教職員（北海道千歳リハビリテーション大学11名、日本航空大学校北海道9名、本学12名）と懇談する機会を設け、各高等教育機関の市内活動について、情報交換を行った。その後、同ポスター展を市民や学生に公開した。</p> <p>○ 本学と連携協定を締結している高大連携校等が利用するeラーニングシステムについて、改善等の意見聴取を行い、教科書の作成・修正、CBT教材の作成、テストの修正を行った。</p> <p>○ 生徒対象のプログラミング教室（実施校1校）を開催したほか、高大連携校に対し、連携校向け取組メニューを改定し、教員向けにICTを活用した教育に関するセミナー、オーダーメイド型出張講義の開催等を周知した。</p> <p>○ 北海道医療大学と連携した「北海道異分野連携教育事業」において、開講した科目は異分野連携実践論（北海道医療大学の科目、履修者は本学3人、医療大4人）、フィジカルアセスメント特論（北海道医療大学の科目、履修者は医療大7人）、情報技術特論（本学の科目、履修者は本学14人）であり、本学の博士前期課程14人、北海道医療大学の博士前期課程8人、合計22人が履修した。</p> <p>○ 新たに、北海道情報大学と教育・研究等に関する包括連携協定を締結することを検討し、令和6年度に調印することとした。</p> <p>○ 千歳市教育委員会とはeカレッジを実施し、市内小中学生を対象に16校から登録者数462名（前年度実績15校339名）が学力の向上に取り組んだ。また、北海道教育委員会とはeラーニング教育システムを活用した教育の発展・充実を図る取組として、北海道内の小中学生延べ97,719名（昨年度実績96,215名）が参加した。</p> <p>○ 渡島総合振興局内の教育委員会に対して、eラーニングの活用事例等を紹介する講習会を開催した。</p> <p>○ これまで実施していた教員免許更新講習に準ずる社会的要請の高い事業を調査したが、費用対効果が期待されるものは見つからなかった。</p>

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績																																									
<p>(4) 地域での学生の活躍に関する目標</p> <p>ア 学生の市内居住に関する目標</p> <p>住まいなど、学生の市内生活に必要な千歳市の情報を提供し、学生の地域での活動をサポートする。</p> <p>イ 学生の活躍の場の創出に関する目標</p> <p>学生の地域活動を教育の一環として取り組み、学生がまちなかで活躍できる仕組みづくりを行い、若者が持つ「知力、体力、発信力」をまちの活力につなげる。</p>	<p>【指標】</p> <p>3-(3)-1 eラーニングシステムのリクエストに基づくコンテンツ改修件数を年1,500件以上とする。</p> <p>3-(3)-2 学力向上に向けた地域の教育関係者との意見交換会の開催を年1回以上とする。</p> <p>(4) 地域での学生の活躍に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 学生の市内居住に関する目標を達成するための措置</p> <p>市内関係機関と協力して組織的に市内居住情報やボランティア活動、アルバイト等市内での活動に資する情報の提供などを行う体制を充実する。</p> <p>イ 学生の活躍の場の創出に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 地域を題材とした授業「千歳学」、「地域課題プロジェクト」等の設定及び活動の拠点を確認して、地域を学生の学びと活躍の場に位置づけ、地域への理解促進と地域課題への対応を行う。</p>	<p>【指標】</p> <p>3-(3)-1 CBT(コンピューター・ベースト・テスト)*²³教材を利用した授業実践に必要な教材を作成するとともに、コンテンツ作成の改修数を中期計画に定める「年1,500件以上」にする。</p> <p>3-(3)-2 学力向上に向け、千歳市教育委員会及び北海道教育委員会との意見交換会の開催を中期計画に定める「年1回以上」行う。</p> <p>(4) 地域での学生の活躍に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 学生の市内居住に関する目標を達成するための措置</p> <p>千歳市社会福祉協議会と連携し、市内のボランティア活動の需要や参加を希望する学生とのマッチングを図る。また、市内及び近郊の企業等から寄せられるアルバイト求人情報及び市内の居住情報を速やかに学生に提供する。</p> <p>イ 学生の活躍の場の創出に関する目標を達成するための措置</p> <p>① 「千歳学」を開講するとともに、「地域課題プロジェクト」の科目を開講し、地域の理解促進と課題解決への対応を図る。</p>	<p>A</p> <p>●コンテンツ改修件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>1,863</td> <td>8,146</td> <td>3,151</td> <td>5,099</td> <td>1,500</td> <td>5,899</td> <td>1,500</td> </tr> </tbody> </table> <p>○改修の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の作成・修正 269件 ・CBT教材の作成 4,831件 ・テストの修正 799件 <p>A</p> <p>●意見交換会開催数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>3回</td> <td>1回</td> </tr> </tbody> </table> <p>○意見交換会の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月 千歳市教育委員会とのeカレッジに関する打合せ(本学3名、相手方3名参加) ・7月 北海道教育委員会との連携内容の確認(本学6名、相手方6名参加) ・12月 北海道教育委員会との連携内容の確認(本学6名、相手方6名参加) <p>A</p> <p>○千歳市社会福祉協議会とボランティア活動についての意見交換(1回)を実施したほか、アルバイト情報及び市内の居住情報を学生に提供(45件)した。</p> <p>A</p> <p>○1年次の開講科目(必修)である「千歳学」の到達目標は、社会の課題を発見する力及びそれを解決する力を身につけ、大学で学んだ知識を社会に還元することの大切さを理解させることであるため、これまで講義形式で進めていたものを「論理的な思考」及び「データ活用」を通じて、<u>論理的思考方法を学ぶことができる内容</u>、さらには、<u>グループワーク形式の授業に変更した</u>。</p>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	1,863	8,146	3,151	5,099	1,500	5,899	1,500	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	4回	3回	2回	2回	1回	3回	1回
				R元	R2	R3	R4	R5		R6																																			
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																																							
1,863	8,146	3,151	5,099	1,500	5,899	1,500																																							
R元	R2	R3	R4	R5		R6																																							
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																																							
4回	3回	2回	2回	1回	3回	1回																																							

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績																																																			
	<p>② 理工工房^{*17}や学習ボランティア^{*18}など学生の学びやサークル活動を幅広く市内で行うとともに、活動の拠点を確保する。</p> <p>【指標】 3-(4)-1 関係団体との意見交換会の開催を年2回以上とする。</p> <p>3-(4)-2 理工工房や学習ボランティアなど学生の学びやサークル活動の市内における活動実績を年50回以上とする。</p>	<p>② 学生活動を市内で展開するとともに、市内の活動拠点形成について、千歳市をはじめとする関係団体と協議を行う。</p> <p>【指標】 3-(4)-1 市内の関係団体との意見交換を中期計画に定める「年2回以上」行う。</p> <p>3-(4)-2 理工工房による実験授業や市内小中高等学校への学習ボランティア^{*24}の派遣実績等を中期計画に定める「年50回以上」にする。</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>○ 「千歳学」の後に開講する「地域課題プロジェクト」の到達目標も「千歳学」と同じであるため、千歳市を題材とした課題解決プロジェクト型学習を行うことができる素養を身につけさせる内容に変更した。</p> <p>○ 令和6年2月、まちライブラリー@ちとせを活用して、本学が公開ゼミを1回開催した。</p> <p>○ 令和6年1月、地域連携センターが開催した「SNC コンファレンス」において、千歳市、北海道千歳リハビリテーション大学、日本航空大学校北海道とまちなかでの活動拠点形成について、意見交換を行った。</p> <p>●市内の関係団体との意見交換会開催回数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>2回</td> <td>6回</td> <td>2回</td> </tr> </tbody> </table> <p>○意見交換会の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> 7月21日 千歳市社会福祉協議会とボランティア活動についての意見交換 9月1日 市内3高等教育機関による意見交換 11月21日 レントドゥ！と学生向けのアパート情報についての意見交換 12月25日 住まいの戸田と学生向けのアパート情報についての意見交換 2月9日 市内3高等教育機関による意見交換 2月19日 連携ネットワーク会議で研究分野での協力や学生の交流についての意見交換 <p>●学生の学びやサークル活動の市内における活動実績 (単位：回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th></th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理工工房</td> <td>96</td> <td>14</td> <td>32</td> <td>65</td> <td rowspan="2">50</td> <td>77</td> <td rowspan="2">50</td> </tr> <tr> <td>学習ボランティア</td> <td>70</td> <td>34</td> <td>36</td> <td>24</td> <td>84</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 学習ボランティアについては、登録学生8名(学部の3年生1名、2年生3名、1年生4名)が千歳市学習支援事業「ちとせ学習チャレンジ塾」に参加した。</p>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	5回	5回	5回	5回	2回	6回	2回		R元	R2	R3	R4	R5		R6		実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	理工工房	96	14	32	65	50	77	50	学習ボランティア	70	34	36	24	84
R元	R2	R3	R4	R5		R6																																																	
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																																																	
5回	5回	5回	5回	2回	6回	2回																																																	
	R元	R2	R3	R4	R5		R6																																																
	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																																																
理工工房	96	14	32	65	50	77	50																																																
学習ボランティア	70	34	36	24		84																																																	

公立大学法人公立千歳科学技術大学 令和5年度計画 業務実績報告(項目4)

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績																				
<p>4 国際交流に関する目標</p> <p>(1) 学生の海外機関との連携に関する目標</p> <p>恒常的な学生の海外派遣及び留学生の受入れを可能にするため、組織体制や環境の整備に向けた取組を推進するとともに、海外大学等との連携を強化し、学生の交流実績拡大を目指す。</p>	<p>4 国際交流に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 学生の海外機関との連携に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 教職員、特に関係業務を担当する事務職員の英語力の向上を目指したFD^{*19}/SD^{*20}活動を行う。</p> <p>イ 市内及び近隣の関係機関と連携し、留学生に関する情報交換・情報共有を行う。</p> <p>【指標】</p> <p>4-(1)-1 提携大学数を本中期計画期間中に5大学以上にする。</p>	<p>4 国際交流に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 学生の海外機関との連携に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア FD活動を行うとともに、事務職員の英語力向上に資するSD^{*25}活動を実施する。</p> <p>イ 市内外の関係機関と留学生に関する情報の交換や共有を行う。</p> <p>【指標】</p> <p>4-(1)-1 海外大学との提携について調査を行い、提携校数を中期計画に定める「5大学以上」にする。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>○ FD研修を3回実施した。(詳細は、下記の【指標】5-(3)-1を参照。)</p> <p>○ 事務職員の英語力向上を図るため、北海道大学大学院教育推進機構 高等教育研修センター主催の英会話研修「大学教職員のための業務用実用英会話集中研修」に、職員1名を複数回派遣した。</p> <p>○ 5月に千歳セントラルライオンズクラブに対して、留学生受入れに関する支援制度の問い合わせを行い、適用条件を把握した。</p> <p>○ 8月には、北海道総合政策部国際局国際課と留学支援事業による「ほっかいどう未来チャレンジ基金」について、意見交換を行った。</p> <p>●提携大学数 (単位：大学)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>9</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 8月にプリンス・オブ・ソククラ大学、11月にモンクット王工科大学ラカバン校と締結した。</p> <p>○ 理事長(学長)が中心となって、本学と教育・研究分野に関連がある海外大学との連携を検討した。(実績は、前記の【指標】4-(1)-1を参照。)</p> <p>○ アラスカ大学とは、担当教員の退任により後任が決定した後に、継続協議することとした。</p> <p>○ 本学の教員2名が、令和6年3月にフィリピン大学及び周辺の大学を訪問し、海外との共同研究に関する外部資金の獲得を視野に入れた意見交換を行った。</p>	R元	R2	R3	R4	R5	R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	3	3	4	7	5	9	5
R元	R2	R3	R4	R5	R6																			
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																		
3	3	4	7	5	9	5																		
<p>(2) 教職員の海外機関との連携に関する目標</p> <p>海外大学等との連携を強化し、協定締結を推進することにより、科技大の教育研究力の向上を目指す。</p>	<p>(2) 教職員の海外機関との連携に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 現在、提携しているドイツ、韓国の大学との交流関係を強化するとともに、今後積極的に新たな提携・協力先の拡大を図る。</p> <p>イ 評価の高い国際会議で採択された者への支援策や海外との共同研究に関する外部資金の獲得を積極的に促進するための方策を検討する。</p>	<p>(2) 教職員の海外機関との連携に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 本学と教育・研究分野において関連がある海外大学と新たな連携について検討する。</p> <p>イ 大きな国際会議で論文等が評価された者への支援や海外との共同研究に関する外部資金の獲得を積極的に促進するための方策を検討する。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>○ 理事長(学長)が中心となって、本学と教育・研究分野に関連がある海外大学との連携を検討した。(実績は、前記の【指標】4-(1)-1を参照。)</p> <p>○ アラスカ大学とは、担当教員の退任により後任が決定した後に、継続協議することとした。</p> <p>○ 本学の教員2名が、令和6年3月にフィリピン大学及び周辺の大学を訪問し、海外との共同研究に関する外部資金の獲得を視野に入れた意見交換を行った。</p>																				

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績																					
	<p>【指標】</p> <p>4-(2)-1 海外の提携・協力先機関を本中期計画期間中に5機関（大学を含む）以上にする。</p>	<p>【指標】</p> <p>4-(2)-1 本学の教育研究と関わりのある海外の大学を調査し、連携・協力先を中期計画に定める「5機関以上」にする。</p>	A	<p>●提携・協力先機関数 (単位：機関)</p> <table border="1" data-bbox="2190 306 2807 470"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>9</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 8月にプリンス・オブ・ソクラ大学、11月にモンクト王工科大学ラカバン校と締結した。</p>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	3	3	4	7	5	9	5
R元	R2	R3	R4	R5		R6																			
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																			
3	3	4	7	5	9	5																			

公立大学法人公立千歳科学技術大学 令和5年度計画 業務実績報告(項目5)

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績
<p>5 業務運営の改善及び効率化に関する目標</p> <p>(1) 運営体制の改善に関する目標</p> <p>理事長(学長)のリーダーシップの下で戦略的に大学を運営できる体制を構築し、教職員が一丸となって継続的に大学運営の改善に取り組む。</p>	<p>5 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 理事長(学長)が法人経営及び教育研究の総責任者として強いリーダーシップを十分に発揮し、機動的な運営ができる組織運営体制を整備するため、役員構成、組織体制等について常に検証し、必要に応じて見直しを行う。</p> <p>イ 各役員権限と責任を明確にするとともに、理事会、経営審議会、教育研究審議会、教授会の機能及び役割分担を明確にし、定期的開催、連携して、法人としての迅速な意思決定ができる体制を構築する。</p> <p>ウ 学外の有識者、専門家及び産業界等から理事、経営審議会委員、教育研究審議会委員を招聘し、経営及び教育研究への幅広い知見を大学運営に生かす。</p> <p>エ 大学運営、中期計画の策定及び管理、大学広報、他機関との連携等の重要な経営戦略を行うため学長企画室を配置する。</p> <p>オ 予算、人員などの経営資源を大学の優先課題に重点的に配分し、戦略的かつ機動的な運営を行う。</p>	<p>5 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 理事長(学長)が強いリーダーシップを発揮し、効率的な運営ができるよう理事会、各審議会の役員及び委員の構成、組織体制について、必要に応じて見直しを行う。</p> <p>イ 各理事の権限と責任を明確にするとともに、理事会、各審議会等を定期または臨時に開催し、各理事、各委員間の意思疎通を深め、関係する機関が相互に連携し迅速な意思決定ができる体制を構築(維持)する。</p> <p>ウ 経営や教育研究に関する幅広い知見を有する学外の有識者、専門家及び経営者等を理事、経営審議会委員、教育研究審議会委員に招聘し、大学運営に生かす。</p> <p>エ 大学運営、中期計画の管理、大学広報、他機関との連携等の重要な大学運営戦略の検討を行うため、学長企画室を設置(維持)する。</p> <p>オ 予算編成にあたっては事前評価によって、事業の優先度を明確にするとともに、学長の意向を反映した重点事項を定め、戦略的な運営を進める予算計上を図る。また、教職員の配置についても、優先課題や業務量に配慮して行う。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>○ 理事会を3回(6月、10月、令和6年2月)、経営審議会及び教育研究審議会をそれぞれ3回(6月、10月、令和6年2月)開催した。いずれも理事長(学長)が議長としてリーダーシップを発揮し、令和4年度の業務実績報告、事業報告、決算報告等を行ったほか、令和6年度の年度計画及び予算の作成など、法人経営及び大学運営に重要な事項について審議した。</p> <p>○ 理事会・各審議会の役員及び委員の構成、組織体制については、下記のイ及びウを参照。</p> <p>○ 5名の理事が「総括」、「総務、財務、渉外、地域貢献(SNC構想)」、「教育」、「研究、国際交流」、「計画評価、コンプライアンス、特命事項」を分担し、2名の監事が、監事業務を行う体制を維持した。</p> <p>○ 理事会、経営審議会及び教育研究審議会に諮る重要事項や常務の執行を円滑に図るため学内理事会を設置し、定例で10回、臨時で3回開催した。</p> <p>○ 理事5名、監事2名、経営審議会委員10名、教育研究審議会委員14名の内、学外から経営や教育研究に関する知見を有する者として、理事1名、監事2名、経営審議会委員4名、教育研究審議会委員1名を招聘し、大学運営に生かした。</p> <p>○ 学長企画室(室長:学長)において、大学の運営戦略、中期計画の管理、大学広報、機関連携、IR、重要プロジェクト等に関する検討を行った。</p> <p>○ 令和6年度予算編成にあたって、新規事業に関する事前評価会議(評価委員:副理事長、学部長、研究科長、事務局長、事務局次長、企画総務課長、財務課長)を5回(8月23日、24日、25日、9月6日、11日)開催するとともに、継続事業に対する事務事業評価会議(評価委員:事前評価会議と同じ。)を3回(7月24日、25日、8月4日)開催し、事業の優先度を明確にした。</p> <p>○ 令和6年度予算において、学長の意向を反映させた重点項目4項目を定め、編成作業を行った。(詳細は、下記の6-(2)-イを参照。)</p> <p>○ 教職員の配置については、教員4名(内、退職者の補充3</p>

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績																					
	<p>カ 教員と事務職員がそれぞれの専門を生かしつつ一体となって、教職協働のもと事業の企画立案、遂行する大学運営体制を構築する。</p> <p>【指標】 5-(1)-1 FD・SD合同研修会の回数を年1回以上とする。</p>	<p>カ 教員と職員が一体となって大学運営に参画する体制を構築するため、教職協働体制を維持する。</p> <p>【指標】 5-(1)-1 教員及び職員に必要な知識を習得させるためのFD^{*26}・SD合同研修会の開催を中期計画に定める「年1回以上」行う。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>名)・職員3名(内、退職者の補充2名)を採用し、業務量等を踏まえ、適切な部署に配置した。</p> <p>○ 運営体制については、入試広報課と「アドミッションセンター」、学生支援課と「学生支援・教育センター」、キャリア支援課と「キャリアセンター」、情報・メディア課と「情報・メディアセンター」、教育連携・研究支援課と「地域連携センター」を配置し、各センターは教員をトップとして組織を構築し、教員組織と職員組織が一体となって大学運営及び事業の企画立案等を行った。</p> <p>○ 令和6年4月に設置する「シリコンリサーチセンター」については、教育連携・教育支援課が参画することを決定した。(詳細は、前記2-(3)-イを参照。)</p> <p>○ センターのもとに委員会を配置し、各担当課が事務局を所管して教職一体となった運営を推進したほか、教授会や企画連絡会議等の各種委員会においても、教員・事務局の幹部及び関係する職員が参画した。</p> <p>○ IR担当教員と若手職員によるデータ活用等に向けたワーキンググループを9月に設置し、活用するデータや効果等について検討した。</p> <p>●FD・SD合同研修会開催数</p> <table border="1" data-bbox="2190 1150 2843 1310"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0(1)回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>3回</td> <td>1回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 令和元年度実績については、外部からの専門家を招聘して対面で実施する予定で準備していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、研修会の資料をポータルサイトに掲載し、各自で研修を行ったことから、「0(1)回」と表記した。</p> <p>○FD・SD合同研修会の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員・情報通信技術支援員(ICT支援員)著作権講習会(8月18日～10月31日開催、オンライン型、16名(教員10名、職員6名)参加) ・情報セキュリティ研修会「ゼロトラスト環境(学内外を問わず情報資産を脅威から守り対策するという考え方)について～ゼロトラストVPNの安全範囲を理解する～メールやOneDriveの多要素認証の試行について」(令和6年2月22日開催、対面及び動画配信、105名(教員51名、職員54名)参加) 	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	0(1)回	2回	1回	3回	1回	2回	1回
R元	R2	R3	R4	R5		R6																			
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																			
0(1)回	2回	1回	3回	1回	2回	1回																			

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績																					
<p>(2) 事務等の効率化及び合理化に関する目標</p> <p>職員の能力向上や事務の合理化を進め、限られた財源と人的資源で効率的な大学運営を目指す。</p>	<p>(2) 事務等の効率化及び合理化に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 的確かつ効率的に対応できる事務組織運営ができるよう、適宜、適切に組織体制の見直しを行う。</p> <p>イ 事務処理の効率化、迅速化を進めるため、事務分担や決裁権限等について常に検証し必要に応じて見直しを行う。</p> <p>ウ 全学的な課題に迅速に対応できるよう、その都度、組織横断的に取組むプロジェクトチーム体制を整備する。</p> <p>エ 事務手続きや情報伝達手段における一層の効率化を向上させるため、インターネットや学内情報ネットワーク等のIT利用を推進する。</p> <p>オ 事務職員の専門性を高めるため職員採用、育成を計画的に行うとともに、能力向上のためのSD研修及び学外研修を推進する。</p> <p>【指標】 5-(2)-1 SD研修会の回数を年2回以上とする。</p>	<p>(2) 事務等の効率化及び合理化に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 大学運営を的確かつ効率的に対応できる適切な事務組織体制について検証し、必要に応じて見直しを行う。</p> <p>イ 事務処理の効率化、迅速化を推進するため、事務分掌や決裁権限を検証し、必要に応じて見直しを行う。</p> <p>ウ 全学的な課題について、事務局内で関係する課の職員で構成するプロジェクトチームを編成するなど、迅速かつ確実に課題解決に取り組む体制を整備する。</p> <p>エ 事務手続きや情報伝達手段の簡素化・効率化を推進するため、学内情報ネットワーク等の活用を図る。</p> <p>オ 専門性に配慮した職員の採用を計画的に進めるとともに、職員を育成するために SD 研修会の開催や公立大学協会等の学外研修会への職員参加を促進する。</p> <p>【指標】 5-(2)-1 SD研修会の開催を中期計画で定める「年2回以上」行う。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>○ 年に2回（基準日5月1日、11月1日）実施する人事評価の「業務の推進状況確認書」やフィードバック面談等を通じて、事務局各課の業務内容、業務量及びその遂行に必要な人員配置について把握・検証し、この結果を踏まえて、令和6年4月1日付けの人事異動案を作成した。</p> <p>○ 令和6年1月の事務局運営会議において、事務専決規程の見直しについて検討し、「現行どおりの対応」で実施することを決定した。</p> <p>○ 重要事項の調査・検討等を行う「法人政策会議」、職務能率の向上及び円滑な業務推進を図るための「事務局運営会議」を毎月開催した。</p> <p>○ 企画総務課、学生支援課が学生プロジェクトメンバーと連携し、学生アルバイトの出勤簿の電子化について4回打合せを行い、システム入力による出勤簿を提出する学生に対し、使用感などについての意見を聴取した。その結果、学生数が増えてもシステムに不具合がなく、また学生はシステムで入力することにより記載ミスが減り、一定の業務改善に繋がっていることが判明した。</p> <p>○ 職員採用については、退職者の補充、業務量の増大を踏まえ、令和5年4月採用者として2名、令和5年10月採用者として1名確保した。</p> <p>○ SD研修を8回開催、また公立大学協会等による学外研修には40名（教員17名、職員23名）が参加し、本学が置かれている状況や今度の大学運営における課題等の理解を深めることができた。</p> <p>●SD研修会開催数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1(2)回</td> <td>6回</td> <td>8回</td> <td>8回</td> <td>2回</td> <td>8回</td> <td>2回</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 令和元年度実績については、1回目が対面による研究会を実施し、2回目も外部からの専門家を招聘して対面で実施する予定で準備していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止</p>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	1(2)回	6回	8回	8回	2回	8回	2回
R元	R2	R3	R4	R5		R6																			
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																			
1(2)回	6回	8回	8回	2回	8回	2回																			

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績																					
	5-(2)-2 学外研修会の参加回数を年2回以上とする。	5-(2)-2 公立大学協会主催等の学外研修会への参加を中期計画で定める「年2回以上」行う。	A	<p>となり、研修会の資料をポータルサイトに掲載し、各自で研修を行ったことから、「1(2)」と表記した。</p> <p>○SD研修会の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語能力向上研修（6月開催、対面型、職員1名参加） ・公立大学職員研修（8月開催、対面型、職員2名参加） ・公立大学法人会計セミナー（9月開催、オンライン型、職員2名参加） ・ハラスメント防止研修（9月開催、ハイフレックス型、教員48名・職員35名参加） ・職員人事評価研修（11月開催、対面型、職員26名参加） ・メンタルヘルス研修（11月開催、ハイフレックス型、教員42名・職員43名参加） ・大学におけるハラスメント防止対策に関する教職員セミナー（令和6年2月開催、オンライン型、教員7名・職員6名参加） ・コンプライアンス・倫理研修（令和6年3月開催、オンライン型、教員46名・職員34名参加） <p>●学外研修会開催数</p> <table border="1" data-bbox="2190 989 2807 1146"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>7回</td> <td>8回</td> <td>2回</td> <td>8回</td> <td>2回</td> </tr> </tbody> </table> <p>○学外研修会の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新人社員スキルアップ合同研修会（4月開催、対面型、職員2名参加） ・公立大学に関する基礎研修（4月開催、オンライン型、職員2名参加） ・公立大学協会担当者研修（6月開催、オンライン型、職員2名参加） ・英語能力向上研修（6月開催、対面型、職員1名参加） ・教職員・情報通信技術支援員（ICT支援員）著作権講習会（8月開催、オンライン型、教員10名・職員6名参加） ・公立大学職員セミナー（8月開催、対面型、職員3名参加） ・公立大学法人会計セミナー（9月開催、オンライン型、職員2名参加） ・大学におけるハラスメント防止対策に関する教職員セミナー（令和6年2月開催、オンライン型、教員7名・職員6名参加） 	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	4回	4回	7回	8回	2回	8回	2回
R元	R2	R3	R4	R5		R6																			
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																			
4回	4回	7回	8回	2回	8回	2回																			

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績
<p>(3) 人事制度と人材育成に関する目標</p> <p>人事評価制度の内容を適宜見直しながら、教職員の意欲の向上を図る。また、教職員の資質向上を図るため、FD^{※4}やSD^{※5}を実施し、有能な教職員養成を目指す。</p> <p>※4 FD：ファカルティ・ディベロップメント。大学教員の教育能力を高めるための取組</p> <p>※5 SD：スタッフ・ディベロップメント。大学職員の能力を高めるための取組</p>	<p>(3) 人事制度と人材育成に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 教職員採用計画を策定し、適切な人事配置を行う。</p> <p>イ 原則として、公募による教職員採用を着実にを行い、手続きを明確にし、公正で透明度の高い制度を運用する。</p> <p>ウ 教職員の能力向上、大学運営組織の活性化を図るため、研修計画に基づき、FD、SD活動の定期的な実施、各種学会、研究会、研修会及びOJT^{※21}等の研修を推進し、有能な人材を育成することにより組織力の強化を図る。</p> <p>エ 教員の人事評価について、公立化前の評価制度を踏まえ、「教育活動」、「研究活動」、「社会貢献」、「学内運営」等を基本とする評価を実施するとともに、評価項目と効果について随時検証を行う。</p> <p>オ 事務職員の人事評価について、千歳市の人事評価制度を踏まえ、新たな評価制度を設計、運用するとともに、その効果について随時見直しを行う。</p>	<p>(3) 人事制度と人材育成に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 教職員採用計画に基づき、教職員の採用及び適切な人事配置を行う。</p> <p>イ 教員採用は原則として公募による採用とし、キャリア支援ポータルサイトの活用、並びにホームページ上での募集情報の公開を行う。また、職員採用では、就活情報サイトに募集情報を掲載するとともに、ホームページで募集情報を公開するなどの公募を行う。</p> <p>ウ 研修計画を策定し、FD・SD 合同研修会の開催及び公立大学協会主催の研修会への職員派遣、このほか各種学会、研究会、研修会への教員参加を促し、教職員の能力向上、組織力の強化を図る。</p> <p>エ 教員の人事評価について「教育活動」、「研究活動」、「地域・社会・大学貢献に関する活動」に関する評価を実施するとともに、評価項目と効果について随時検証を行う。</p> <p>オ 事務職員の人事評価について、千歳市の評価制度を参考にし、運用するとともに、その効果について随時検証し、必要に応じて見直しを行う。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>○ 教職員採用計画に基づき、教職員採用活動を行い、教員については新規採用者1名、退職補充者3名、職員については新規採用者1名、退職補充者2名を確保した。</p> <p>○ 教員採用については、各学科の意向等を踏まえた上で、教員人事委員会において募集要項案を作成し、学内理事会で要項案について決定した。</p> <p>○ 人事配置については、前記の(2)-アを参照。</p> <p>○ 教員（専任3名）採用については、国立研究開発法人科学技術振興機構のJREC-INPortal及び本学ホームページで公募し、採用した。</p> <p>○ 教員1名（専任及び特任）については、業務の特殊性及び応募者の中に適任者がいないことから、他大学の退職者に就任の依頼を行い、確保した。</p> <p>○ 職員（3名）の採用については、本学ホームページ及び新聞広告で公募した。</p> <p>○ 研修計画を策定し、FD・SD 合同研修会を2回開催した。（詳細は、前記の【指標】5-(1)-1を参照。）</p> <p>○ 公立大学協会主催等の研修会への職員の参加・派遣を8回実施した。（詳細は、前記の【指標】5-(2)-2を参照。）</p> <p>○ 研修会等への教員参加を4回実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメント防止研修（9月開催、ハイフレックス型、教員48名参加） ・メンタルヘルス研修（11月開催、ハイフレックス型、教員42名参加） ・大学におけるハラスメント防止対策に関する教職員セミナー（令和6年2月開催、オンライン型、教員7名参加） ・コンプライアンス・倫理研修（令和6年3月開催、オンライン型、教員46名参加） <p>○ 学長企画室が評価項目と効果を検証（令和4年度実施）し、新しい評価項目（「大学院の学生数」を追加）で教員人事評価を実施した。</p> <p>○ 令和6年度以降の評価項目については、令和5年度と同様の内容で実施することを決定した。</p> <p>○ 人事評価の内容を検証し、千歳市の人事評価制度を踏まえた職員人事評価を継続して実施した。</p> <p>○ 効果的かつ適切な人事評価を実施するため、人事評価研修</p>

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績																					
	<p>カ 教育・研究ポテンシャルの向上に向けて、新規採用、人員配置の見直しを行う。併せてサバティカル制度等、学外での研鑽のあり方を検討する。</p> <p>【指標】 5-(3)-1 教員のFD研修会の回数を年2回以上とする。</p>	<p>カ 教員採用計画に沿った新規採用を行うとともに、人員配置の適切性について適宜検証し、必要に応じて見直しを行う。併せて、教員の学外での研鑽のあり方について、抽出した課題の解決策を検討する。</p> <p>【指標】 5-(3)-1 FD研修会の開催を中期計画に定める「年2回以上」行う。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>(評価者研修 11月1日実施、被評価者研修 11月7日及び9日実施)を行い、職員26名が参加した。研修では、組織コミュニケーションのあり方やフォローシップの基本的な考え方などについて、外部講師から説明を受けた。</p> <p>○ 教員採用については、各学科の意向等を踏まえた上で、教員人事委員会において募集要項案を作成し、学内理事会で要項案の決定を行った。</p> <p>○ 教員の学外での研鑽のあり方については、令和6年2月に開催した第10回企画連絡会議において、サバティカル制度の導入に向けた議論を行い、令和6年度において、規程等の整備に向けた検討を進めることとした。</p> <p>●FD研修会開催数</p> <table border="1" data-bbox="2190 829 2843 987"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0(2)回</td> <td>2回</td> <td>3回</td> <td>3回</td> <td>2回</td> <td>3回</td> <td>2回</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 令和元年度実績については、対面で実施する予定で準備していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止にし、オンラインで開催したことから、実績を「0(2)」と表記した。</p> <p>○FD研修会の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイトル「ゼロトラスト環境について～ゼロトラストVPNの安全範囲を理解する～」 開催日 令和6年2月22日 講師 本学 砂原 悟 助教 参加者 105名(教員51名、職員54名) ・学修成果の可視化と教育のDXについて(「金沢工業大学における教育DXの取組と学修者支援」、「学修/教育eポートフォリオとその深化～大学統合を経た大阪公立大学における学修成果の可視化～」) 開催日 令和6年2月28日 講師 山本 知仁 教授(金沢工業大学 工学部) 星野 聡孝 教授(大阪公立大学 国際基幹教育機構) 参加者 23名(教員17名、職員6名) ・本学の教職課程とそれを取り巻く状況について(「科技大教職課程の概要と理念」、「高等学校における「探究」に関する取組について」) 開催日 令和6年3月27日 講師 本学 宮嶋 衛次 教授 	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	0(2)回	2回	3回	3回	2回	3回	2回
R元	R2	R3	R4	R5		R6																			
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																			
0(2)回	2回	3回	3回	2回	3回	2回																			

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己 評価	令和5年度業務実績
				本学 近藤 浩文 教授 参加者 27名(教員 25名、職員 2名)

公立大学法人公立千歳科学技術大学 令和5年度計画 業務実績報告(項目6)

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績																					
<p>6 財務内容の改善に関する目標</p> <p>(1) 自己収入の確保に関する目標</p> <p>研究活動を活発に行えるよう、科学研究費助成事業、共同研究、寄附金などの外部研究資金の獲得を推進する。</p>	<p>6 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 自己収入の確保に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 競争的研究資金、共同研究、受託研究、奨学寄附金などの外部資金を獲得するための施策を推進する。</p> <p>イ 科学研究費助成事業の申請率(研究代表者)を高める。</p> <p>ウ 科研費採択率向上に向けて、申請書の書き方等の研修会を開催する。</p> <p>エ 外部資金を獲得するため大学の研究内容を広くPRするとともに、学内の地域連携センターを中心に募集情報等の収集、教員への提供、申請等の支援体制を整備する。</p> <p>オ 教育研究活動の充実を図るための資金確保を目的に幅広く寄附を募集するための施策を検討する。</p> <p>【指標】</p> <p>6-(1)-1 科学研究費助成事業応募申請率を本中期計画期間中に専門教育担当教員の100%とする。</p>	<p>6 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 自己収入の確保に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 外部資金を獲得するため、必要な情報を教員に提供するなどの施策を推進する。</p> <p>イ 科学研究費助成事業^{*27}に関する説明会等を開催し応募申請を勧奨するなどの取組を行い、同助成事業の申請率を高める。</p> <p>ウ 科研費の獲得に向けて研究計画書の書き方等の研修会を開催する。</p> <p>エ 外部資金を獲得するため、大学の研究内容を紹介する研究シーズ集^{*28}を作成し、企業や研究機関等に配付して周知を図る。また、企業等から寄せられる地域連携センターへの問い合わせ内容を精査し、担当教員につなぐ体制を整備する。</p> <p>オ 教育研究活動の充実を図るため、幅広く寄附金を募集する。このほか、新たな自己収入拡大のための施策について調査・検討を行い、有効な施策を適宜実施する。</p> <p>【指標】</p> <p>6-(1)-1 専門教育担当教員の科学研究費助成事業応募申請率を90%以上にする。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>○ 文部科学省、経済産業省及びJSTなどのホームページをはじめ、各種研究機関からの応募情報を教員に周知(22回)し、外部資金獲得状況は<u>研究代表者が30件</u>(前年度19件)となった。</p> <p>○ 教授会や科研費学内研修(オンデマンド形式、8月から9月に開催)の機会を通じ、応募を勧奨した結果、<u>科研費の応募申請率が94.4%</u>(前年度80.0%)となった。(下記の【指標】6-(1)-1を参照。)</p> <p>○ 「令和5年度の科研費の動向及び研究計画書の書き方」について、オンデマンド教材を随時提供し、<u>申請者全員がビデオを視聴した。</u></p> <p>○ 研究シーズ集を新たに1,500冊作成し、千歳市、千歳商工会議所、千歳工業クラブ、PWC等に500冊配付し、本学の研究シーズをPRした。</p> <p>○ 展示会に参加(前記の3-(2)-ア-①を参照)し、研究シーズ集を300冊配付(下記の【指標】6-(1)-2を参照)した。</p> <p>○ 地域連携センターに寄せられた企業等からの問合せ内容については、本学教員の知識や経験を生かして解決に導くことを目的に、センター会議での対応のあり方を検討した。</p> <p>○ 寄附金収入の増額に向け、本学ホームページにおいて案内を掲載し、インターネット上で寄附が可能であることなどを告知した。また、年2回発行の学報を保護者及び卒業生に送付する際、寄附金案内を同封した。</p> <p>○ 新たな自己収入拡大のための施策として、<u>CIFのホームページの活用を検討した</u>ほか、自己収入拡大の方策として、計9億円を定期預金(1年間)で運用し、<u>458,796円</u>(前年度272,000円)の利息収入を得た。</p> <p>●科学研究費助成事業応募申請率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50.0%</td> <td>65.5%</td> <td>76.5%</td> <td>80.0%</td> <td>90%</td> <td><u>94.4%</u></td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	50.0%	65.5%	76.5%	80.0%	90%	<u>94.4%</u>	100%
R元	R2	R3	R4	R5		R6																			
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																			
50.0%	65.5%	76.5%	80.0%	90%	<u>94.4%</u>	100%																			

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績																																																																								
<p>(2) 経費節減に関する目標 教育水準の維持向上に配慮しながら業務の点検及び精査を行い、適切に予算を配分するとともに、効率的かつ合理的な予算の執行により経費の節減を図る。</p>	<p>6-(1)-2 外部資金獲得件数 受託・共同研究を本中期計画期間中に年20件以上にする。 奨学寄附金を本中期計画期間中に年15件以上にする。</p> <p>(2) 経費節減に関する目標を達成するための措置 ア 予算は、中期計画に沿って、編成する。</p> <p>イ 予算執行にあっては、創意工夫し、重点的かつ効</p>	<p>6-(1)-2 外部資金獲得件数 受託・共同研究及び奨学寄付の合計件数を前年度実績以上にする。</p> <p>(2) 経費節減に関する目標を達成するための措置 ア 中期計画の目標を達成できる予算を編成する。</p> <p>イ 予算については創意工夫を施し、重点的かつ効率的</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>●受託・共同研究実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12件</td> <td>20件</td> <td>20件</td> <td>19件</td> <td>20件</td> <td>19件</td> <td>20件</td> </tr> </tbody> </table> <p>●奨学寄附金受入れ実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5件</td> <td>8件</td> <td>10件</td> <td>6件</td> <td>15件</td> <td>14件</td> <td>15件</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 共同研究や受託研究の実績を増やすため、「研究シーズ集」を広く企業等に配付・PRするとともに、約300部を展示会（InterOpto2023、BioJapan2023、ビジネス EXPO2023、nanotech2024）で配付した。</p> <p>○ 令和6年度予算編成方針では「中期目標の達成に向けた取組の推進」、「中期計画の着実な推進」を基本にして、予算ヒアリングを行い、中期計画との関連を確認した上で編成した。</p> <p>○ 令和5年度においては、中期計画の達成・推進に向け、<u>目的積立金 55,999,937円を財源として、事業を実施した。</u></p> <p>○ 令和5年度の目的積立金活用</p> <table border="1"> <tbody> <tr><td>1</td><td>留学支援事業</td></tr> <tr><td>2</td><td>学内ネットワーク管理事業</td></tr> <tr><td>3</td><td>ポータルサイト・学生カルテ事業</td></tr> <tr><td>4</td><td>ホームページ運営事業</td></tr> <tr><td>5</td><td>海外大学連携事業</td></tr> <tr><td>6</td><td>地域連携センター事業</td></tr> <tr><td>7</td><td>ARIM事業（自主財源）</td></tr> <tr><td>8</td><td>オープンキャンパス実施事業</td></tr> <tr><td>9</td><td>大学案内等制作事業</td></tr> <tr><td>10</td><td>自己点検評価事業</td></tr> <tr><td>11</td><td>校地管理事業</td></tr> <tr><td>12</td><td>学生活動支援事業</td></tr> <tr><td>13</td><td>就職活動支援事業</td></tr> <tr><td>14</td><td>産学連携コーディネーター委託事業</td></tr> <tr><td>15</td><td>設備管理事業</td></tr> </tbody> </table> <p>○ 令和6年度予算編成方針には、<u>重点項目</u>（(1) 大学の国際化</p>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	12件	20件	20件	19件	20件	19件	20件	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	5件	8件	10件	6件	15件	14件	15件	1	留学支援事業	2	学内ネットワーク管理事業	3	ポータルサイト・学生カルテ事業	4	ホームページ運営事業	5	海外大学連携事業	6	地域連携センター事業	7	ARIM事業（自主財源）	8	オープンキャンパス実施事業	9	大学案内等制作事業	10	自己点検評価事業	11	校地管理事業	12	学生活動支援事業	13	就職活動支援事業	14	産学連携コーディネーター委託事業	15	設備管理事業
R元	R2	R3	R4	R5		R6																																																																						
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																																																																						
12件	20件	20件	19件	20件	19件	20件																																																																						
R元	R2	R3	R4	R5		R6																																																																						
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																																																																						
5件	8件	10件	6件	15件	14件	15件																																																																						
1	留学支援事業																																																																											
2	学内ネットワーク管理事業																																																																											
3	ポータルサイト・学生カルテ事業																																																																											
4	ホームページ運営事業																																																																											
5	海外大学連携事業																																																																											
6	地域連携センター事業																																																																											
7	ARIM事業（自主財源）																																																																											
8	オープンキャンパス実施事業																																																																											
9	大学案内等制作事業																																																																											
10	自己点検評価事業																																																																											
11	校地管理事業																																																																											
12	学生活動支援事業																																																																											
13	就職活動支援事業																																																																											
14	産学連携コーディネーター委託事業																																																																											
15	設備管理事業																																																																											

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績
	<p>率的に運用する。</p> <p>ウ 教育研究の質の向上及び活性化を図るとともに、法人の健全な経営を確保するため教職員全員がコスト意識を持ち、業務の改善、見直しに取り組む。</p> <p>エ 管理的経費については、物品備品の購入方法や契約方法の見直しを進めるなど効率的な執行に取り組む。</p> <p>オ 設備維持管理等の契約期間の複数年化、契約の集約化による契約により軽減を図る。</p> <p>【指標】 6-(2)-1 健全な財務運営のため、当該計画の予算の範囲内で収支均衡を図る。</p>	<p>に執行する。</p> <p>ウ 組織全体のコスト意識の醸成、各事業及び業務の点検・改善・見直しに取り組み、費用対効果に配慮しながら、教育研究の質の向上や活性化を図るとともに、教職員全員に予算資料を配付し、また管理職には予算の仕組み、財政の状況を説明する。</p> <p>エ 管理的経費の執行においては経費の削減に努め、特に物品購入等にあたっては、事務局共通の消耗品等の購入及び契約方法を適宜見直す。</p> <p>オ 設備維持管理等の業務委託契約について、複数年化や集約化に基づく契約等による削減効果を検証し、効果が期待できる契約については、順次見直しを行う。</p> <p>【指標】 6-(2)-1 健全な財務運営のため、当該計画の予算の範囲内で収支均衡を図る。</p>	<p></p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>の推進を目的とした基本計画の策定、これに基づいた海外大学との連携、留学生の派遣及び受入れに関する制度の検討、(2) 学生支援、キャリア支援の効果的な事業の実施、(3) 学生生活動の環境を向上させるため、特に安全管理に重点を置いた施設、設備の点検、整備の実施、(4) その他第1期中期目標の達成のために必要な事業)を掲げ、編成作業を行った。</p> <p>○ 令和5年度の予算執行にあたっては、「公立大学法人公立千歳科学技術大学契約事務規程」に基づき、指名競争入札、見積合わせを実施することにより、経費の節減を図り、入札では事業全体の約4%削減が実現した。(実績 79,473,900千円/予定価格 82,864,400千円=執行率95.9%)</p> <p>○ 事務事業評価及び事前評価を実施し、事業及び事務の点検・改善・見直し及び教育研究の質の向上・活性化に取り組むとともに、予算資料(令和5年度予算書)をポータルサイトに掲示し、教職員がいつでも閲覧できる状態にしたほか、令和6年2月の理事会、経営審議会、教育研究審議会の開催に向けて、職員の管理職に対し予算の仕組み、財務の内容について説明を行った。</p> <p>○ 管理的経費の執行においては、指名競争入札、見積合わせを実施し、事業費削減を図った。(詳細は、前記のイを参照。)</p> <p>○ 学内の各種会議・委員会でのペーパーレス化に加え、教職員への資料配付(業務マニュアル、年末調整等)及び教職員採用試験における応募書類の配付をデータによって行うなど、ペーパーレス化の推進を図った。</p> <p>○ 事務局各部署の複合機について更新計画を作成し、令和6年度施設整備補助金で更新することとした。これにより多くの部署で印刷単価モノクロ1枚あたり2.2円が1.1円、カラー13.2円が8.8円になる見込みとなった。</p> <p>○ 電気代については、複数年契約化によって削減の効果が期待できることが明らかになったため、令和6年3月、令和6年4月1日以降分の電気代について複数年契約を締結し、現契約を継続していた場合と比較して、令和6年度は308万円削減の見込みとなった。</p> <p>○ 令和5年度決算の損益計算書において、449,042,620円(臨時利益資産見返戻入373,335,271円含む)の利益が生じた。また、令和6年度予算編成においては、目的積立金(134,839,000円)を取り崩し、収支均衡を図った。</p>

公立大学法人公立千歳科学技術大学 令和5年度計画 業務実績報告(項目7~8)

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績
<p>7 自己点検、評価及び情報公開に関する目標</p> <p>(1) 評価に関する目標</p> <p>第三者評価を活用しながら教育研究及び組織運営について定期的に自己点検を実施し、その結果を公表するとともに、評価結果を改善につなげる。</p>	<p>7 自己点検、評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 評価に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 教育研究活動及び大学運営状況について、中期目標、中期計画の達成状況、成果を検証し、改善を図るため、理事会、経営審議会、教育研究審議会です分に検討し、適切に改善策を行う。</p> <p>イ 認証評価機関による評価を平成35年度（令和5年度）に受審する。</p> <p>【指標】</p> <p>7-(1)-1 認証評価機関の評価で「適合」を取得する。</p>	<p>7 自己点検、評価及び情報公開に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 評価に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 教育研究活動及び大学運営状況について、中期目標、中期計画の達成状況や成果をもとに、理事会、経営審議会、教育研究審議会です分に検討し、必要な改善に取り組む。</p> <p>イ 認証評価機関による評価を令和5年度に受審する。</p> <p>【指標】</p> <p>7-(1)-1 令和5年度に受審する認証評価機関の評価で、「適合」を取得する。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>○ 第1回の理事会、経営審議会、教育研究審議会において、「令和4年度及び第1期中期目標期間(4年目終了時)業務実績報告書」について、審議・決定した。</p> <p>○ 第2回の理事会等では、千歳市公立大学法人評価委員会による「令和4年度及び第1期中期目標期間(4年目終了時)業務実績報告評価結果」について報告を行ったほか、中期計画達成のための補正予算案及び令和6年度予算編成方針等について、審議・決定した。</p> <p>○ 次年度の年度計画の策定にあたり、各担当課のヒアリングで進捗状況を確認し、中期計画の達成に向けた「令和6年度計画」案を作成し、第3回の理事会等において、審議・決定した。</p> <p>○ 11月に、一般財団法人大学教育質保証・評価センターによる認証評価を受審した。</p> <p>○ 11月に、一般財団法人大学教育質保証・評価センターによる認証評価を受審し、令和6年3月に「大学評価基準を満たしている」と認定された。</p> <p>○ 一般財団法人大学教育質保証・評価センターが評価した本学の優れた点は、次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「学生チャレンジプログラム制度」「大学院研究奨励金」など、学生に対する大学独自の経済的支援の仕組みを設け、学生の意欲的なプロジェクト活動や研究成果の発表を組織的に支援していること。 ・ 公立大学となったことを契機に、地域の自治体や企業と連携して行う体系的な地域連携科目の設置、地域の企業へのインターンシップの実施など、地域の理解・関心を深める教育活動に取り組み、また地域の企業への就職者数が増加する傾向にあるなど、<u>地域に密着した人材育成に努めていること。</u> ・ 2012年度から文部科学省の装置共用事業に参画して地域内外の関係機関と連携を図るほか、2019年度から学内特別研究費の仕組みを設け、科学研究費助成事業の申請率や受託・共同研究の件数が年々増加し、この5年間で約2倍に増えるなど、<u>研究支援・研究促進事業に組織的に取り組んでいること。</u>

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績																					
<p>(2) 情報公開及び広報活動に関する目標</p> <p>中期計画、年度計画、財務諸表及び自己点検による評価結果等の法令上公表が求められている事項はもとより、教育研究活動や地域貢献活動などについて速やかに公表する。また、効果的な広報活動を行い、多くの学生に選ばれる大学を目指す。</p>	<p>(2) 情報公開及び広報活動に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 法人運営の透明性を高め、市民に対する説明責任を果たすため法令上公表が求められている事項(中期計画、年度計画、財務諸表等)の法人情報を大学ホームページ等に掲載し、積極的な情報公開を行う。</p> <p>イ 自己点検、自己評価及び第三者評価(千歳市公立大学法人評価委員会、認証評価機関)による評価結果を報告書やホームページで公表する。</p> <p>ウ 大学の教育研究活動や地域貢献活動について、効果的、効率的な広報活動を行うとともに大学のブランド力、認知度を向上させるための広報分析等に基づいた戦略的な広報活動を展開する。</p> <p>【指標】 7-(2)-1 ホームページ内のニューストピックスの件数を年100件以上とする。</p>	<p>(2) 情報公開及び広報活動に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 法人運営の透明性を高め、市民に対する説明責任を果たすため、法令上、公表が求められている事項(中期計画、年度計画、業務実績報告、財務諸表等)に関する法人情報をホームページ等に掲載するなど、積極的な情報公開を行う。</p> <p>イ 業務実績に関する自己点検、自己評価や第三者(千歳市公立大学法人評価委員会、認証評価機関)による評価の結果をホームページで公表する。</p> <p>ウ 大学の教育研究活動や地域貢献活動について、より効果的かつ効果的な方法で広報を行う。また、新入生のアンケート調査結果を分析するとともに、大学のブランド力、認知度を向上させるための広報を検討し、戦略的な広報活動を展開する。</p> <p>【指標】 7-(2)-1 ホームページに掲載する学内の「NEWS お知らせ」及び「ピックアップ」の記事件数を中期計画に定める「年100件以上」にする。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>○ 法令上公表が求められている事項(中期計画、年度計画、財務諸表等)のほか、理事会・経営審議会・教育研究審議会の議事録や業務方法書等を本学ホームページで公表した。</p> <p>○ 令和4年度の業務実績報告書、千歳市公立大学法人評価委員会の業務実績評価書(令和4年度分)を本学ホームページで公表した。また、一般財団法人大学教育質保証・評価センターによる認証評価についても、令和6年4月に本学ホームページで公表することとした。</p> <p>○ 千歳市民文化センターなどを会場として「サイエンスカフェ」を市内高等教育機関合同で開催するなど、本学の研究紹介に取り組んだ。</p> <p>○ 地域貢献活動の広報については、Instagram、Facebook、Lineを活用しているが、Instagramは登録者が多く、その年齢層は35歳から44歳の者が最も多く、企業や団体の業務において中心的な役割を担う層であることから、<u>Instagramの発信を強化</u>した。</p> <p>○ 新入生アンケート調査を分析した結果、テレビCMは期待した成果が得られなかった一方、デジタルサイネージ広告やWebDM配信の方がより高い結果となったことから、テレビCMを取止め<u>デジタルサイネージやWeb媒体を中心にした広報に移行</u>した。</p> <p>○ 大学のブランド力、認知度の向上を目的に、進学雑誌及び進学Webサイトへの広告掲載のほか、WebDM、リーフレットDM、Web広告、新聞広告、デジタルサイネージ広告、看板広告等を行った。</p> <p>A ●ニューストピックスの件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>135</td> <td>168</td> <td>175</td> <td>187</td> <td>100</td> <td>162</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ ニューストピックスの内訳は、お知らせ30件、入試関係54件、地域連携43件、研究情報4件、学生活動15件、就職・キャリア4件ほかであった。</p> <p>○ 各担当の専用ホームページやSNSなどを活用し、ターゲッ</p>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	135	168	175	187	100	162	100
R元	R2	R3	R4	R5		R6																			
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																			
135	168	175	187	100	162	100																			

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績																					
<p>8 その他業務運営に関する重要目標</p> <p>(1) 法令遵守及び人権の尊重に関する目標</p> <p>教職員及び学生の法令遵守の意識向上の研修を行うとともに、ハラスメントなどの人権侵害の防止に向けた取組を推進する。</p>	<p>7-(2)-2 報道機関へのプレスリリースの回数を年20件以上とする。</p> <p>8 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置</p> <p>(1) 法令遵守及び人権の尊重に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 大学は、社会的使命や業務の公共性から高い倫理観、厳格な法令遵守（コンプライアンス）が求められることから、教職員、学生にその啓発と教育研修を実施する。</p> <p>イ 各種ハラスメントをなくすために、教職員並びに学生に対しハラスメントに関するルール、相談窓口体制を周知徹底すると共に、人権に関するガイダンス等を開催し人権尊重の意識向上に取り組む。</p> <p>ウ 研究活動における不正行為や研究費の不正使用の防止対策のため、研修会を実施する。</p>	<p>7-(2)-2 報道機関へのプレスリリースの回数を中期計画に定める「年20件以上」にする。</p> <p>8 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置</p> <p>(1) 法令遵守及び人権の尊重に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 社会的使命や業務の公共性により高い倫理観と厳格な法令遵守（コンプライアンス）が求められることから、教職員、学生にその啓発を図るとともに、教育研修を実施する。</p> <p>イ 教職員及び学生に対し、ハラスメントに関するルールや相談窓口を学内掲示板、ポータルサイト*29で周知する。また、学生には年度当初のガイダンス時にキャンパスハラスメントについて、具体的事例や相談方法を紹介する。さらには、教職員を対象にした外部講師によるハラスメント研修会を開催するなど、人権尊重の意識向上に取り組む。</p> <p>ウ 研究活動における不正行為や研究費の不正使用を防止する対策として、教員対象の研修会を開催するとともに、大学院生には、年度当初のガイダンスで</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>トを絞り込んだ情報提供に取り組んだことから、前年度実績を若干下回る結果となった。</p> <p>●プレスリリースの回数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20件</td> <td>25件</td> <td>32件</td> <td>38件</td> <td>20件</td> <td>39件</td> <td>20件</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ プレスリリースの内訳は、入試関係4件、学生表彰関係8件、地域連携14件、法人情報2件、教員表彰関係5件、研究情報4件、国際連携2件であった。</p> <p>○ 令和6年3月、教職員に対してコンプライアンス・倫理研修を実施した。研修内容は「教員向け」（オンライン型、研究活動における不正行為や研究費の不正使用防止について）と「教職員向け」（オンライン型、公的機関におけるコンプライアンスについて）であり、延べ80名（教員46名、職員34名）が参加した。</p> <p>○ 学生に対しては、ポータルサイトに「ハラスメント防止対策」として、本学のハラスメント対策の考え方、相談窓口、相談の流れ等を掲載し、各自が必要な時に閲覧、プリントアウトできるように対応した。</p> <p>○ 4月のガイダンス時に、キャンパスハラスメントについて、一般的な事例と相談方法に関する紹介を行ったほか、1年生を対象にハラスメント研修を行った。（学生272名参加）</p> <p>○ 教員を対象にしたハラスメント防止研修として、令和6年2月及び3月に外部講師を招き、ハイフレックス型で開催した。（教員48名が参加）</p> <p>○ 令和6年2月、教職員を対象とした「大学におけるハラスメント防止対策に係る教職員セミナー」に外部講師を招聘しオンライン型で実施した。教員7名、職員6名が参加</p> <p>○ 令和6年度の施行に向けて、<u>ハラスメント防止ガイドラインの見直し</u>を行った。</p> <p>○ 教員を対象に「研究倫理研修」を令和6年3月に実施し、テーマは「研究活動における不正行為や研究費の不正使用防止について」（講師：石田 純弁護士）のほか、新規採用教員</p>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	20件	25件	32件	38件	20件	39件	20件
R元	R2	R3	R4	R5		R6																			
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																			
20件	25件	32件	38件	20件	39件	20件																			

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績																																
<p>(2) 安全衛生及び危機管理に関する目標</p> <p>学生及び教職員の安心・安全な教育研究環境を確保するとともに、災害、事故、犯罪等に対して迅速かつ適切に対応するための体制を整備する。</p>	<p>【指標】</p> <p>8-(1)-1 コンプライアンスの研修会を年1回以上とする。</p>	<p>周知徹底を図る。</p> <p>【指標】</p> <p>8-(1)-1 コンプライアンスに関する研修会の開催を中期計画に定める「年1回以上」行う。</p>	A	<p>に対して日本学術振興会が実施する eラーニングによる研究倫理研修に4名(100%)が参加した。</p> <p>○ 大学院生に対しては、教育連携・研究支援課職員が4月の新入生ガイダンスにおいて、研究費の不正防止について説明した。</p> <p>●コンプライアンス研修会開催数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th></th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>各1回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>学生</td> <td>4回</td> <td>2回</td> <td>2回</td> <td>5回</td> <td>1回</td> <td>3回</td> <td>1回</td> </tr> </tbody> </table> <p>○研修会の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学生向け」4月開催(1年生ガイダンスで、コンプライアンス研修、租税セミナー)、5月開催(交通安全講習) ・「教員向け」令和6年3月開催(研究活動における不正行為や研究費の不正使用防止について)、「教職員向け」令和6年3月開催(公的機関におけるコンプライアンスについて) 		R元	R2	R3	R4	R5		R6		実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	教職員	1回	1回	各1回	2回	1回	2回	1回	学生	4回	2回	2回	5回	1回	3回	1回
		R元		R2	R3	R4	R5		R6																											
	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																													
教職員	1回	1回	各1回	2回	1回	2回	1回																													
学生	4回	2回	2回	5回	1回	3回	1回																													
<p>8-(1)-2 人権尊重の意識向上対策活動として教職員並びに学生に対し年1回以上研修を行う。</p>	<p>8-(1)-2 人権尊重の意識向上対策活動として、教職員及び学生を対象とする研修会の開催を中期計画に定める「年1回以上」行う。</p>	A	<p>●人権尊重の意識向上研修開催数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th></th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>各1回</td> <td>各1回</td> <td>各1回</td> <td>2回</td> <td>各1回</td> </tr> <tr> <td>学生</td> <td>4回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> </tbody> </table> <p>※詳細は、前記のイを参照。</p>		R元	R2	R3	R4	R5		R6		実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	教職員	1回	1回	各1回	各1回	各1回	2回	各1回	学生	4回	2回	1回	1回	1回	1回	1回	
	R元		R2	R3	R4	R5		R6																												
	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																													
教職員	1回	1回	各1回	各1回	各1回	2回	各1回																													
学生	4回	2回	1回	1回	1回	1回	1回																													
<p>8-(1)-3 eラーニングによる研究倫理研修の教員参加率を年100%とする。</p>	<p>8-(1)-3 日本学術振興会が実施する eラーニングによる研究倫理研修への新任教員参加率を100%にする。</p>	B	<p>●研究倫理研修教員参加率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※詳細は、前記のウを参照。</p>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%												
R元	R2		R3	R4	R5		R6																													
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																														
100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%																														
<p>学生及び教職員の健康保持及び安全衛生の向上を図るため、現行規程の検証・見直しを行うとともに、衛生委員会を定期的に開催する。</p>	<p>ア 学生、教職員の健康保持及び安全衛生の向上を図るため、現行規程の検証・見直しを行うとともに、衛生委員会を定期的に開催する。</p>	B	<p>○ 定期的に衛生委員会を開催(2回)し、令和6年度施行に向けて、ハラスメント防止ガイドライン等の見直し・検討を行った。</p> <p>○ 教職員のストレスチェック(10月～11月に実施)や職場内の安全衛生点検などを実施した。</p>																																	

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績																					
	<p>イ 教育、研究での危険物や実験器具等の管理及び使用に関する手引きを整備、学生への指導を徹底し、事故防止の啓発を行う。</p> <p>ウ 情報セキュリティポリシーについて、公的機関の基準を参考に見直しを適宜行うと共に、教職員への周知及び研修等を行う。</p> <p>エ 大学において発生、又は発生が予測される事故、災害の発生に適切に対応するため危機管理体制を構築する。</p> <p>オ 大規模地震、災害等により大学運営への影響を最小限にするため、学内の防災、減災対策を行うため防災計画、マニュアル等を整備し、定期的に消防訓練等を行う。</p> <p>【指標】 8-(2)-1 情報セキュリティに関する研修会を年1回以上とする。</p> <p>8-(2)-2 消防訓練の実施を年2回以上とする。</p>	<p>イ 教育、研究での危険物や実験器具等の管理及び使用に関する手引きを適宜更新するとともに、学生への指導を徹底し、事故防止の啓発を行う。</p> <p>ウ 情報セキュリティポリシーを適宜検証し、必要に応じて見直しを行うとともに、セキュリティポリシーをSD研修やFD研修を通じて、教職員に周知する。</p> <p>エ 事故や災害時における教職員の行動内容を検証し、危機管理体制の維持・充実を図る。</p> <p>オ 大規模地震、災害等により大学運営への影響を最小限にするため、防災計画・マニュアル等を整備するとともに、消防訓練を定期的に行う。</p> <p>【指標】 8-(2)-1 情報セキュリティに関する研修会を中期計画に定める「年1回以上」行う。</p> <p>8-(2)-2 消防訓練について、図上訓練と実地訓練を各々1回実施する。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>○ 学生の実験テキストに、機器の安全な取扱方法など事故防止の内容を盛り込み、授業内で科目担当教員が学生に指導・説明を行った。</p> <p>○ 授業科目担当教員の責任のもと、実験実習科目において、実験器具の取扱いの熟練度の高い大学院生及び学部4年生のIA及びSAを各実験グループにバランスよく配置し、実験を行う学生の安全に配慮した体制を維持した。</p> <p>○ 施設管理等については、各研究室に緊急時の連絡先の掲示などを注意喚起した。</p> <p>○ <u>ゼロトラスト環境整備</u>を令和6年度から実施するため、FD/SD研修（令和6年2月。教員51名、職員54名参加）を開催し、情報セキュリティに関する新たな環境の利用方法を周知した。</p> <p>○ 法令改正に併せて、化学物質管理者を令和6年4月に選任する方向で準備を進めた。</p> <p>○ 消防訓練として、図上訓練を8月、実地訓練を11月に行った。</p> <p>○ 情報棟の火災を想定したマニュアルを整備した。</p> <p>●情報セキュリティ研修会開催数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th colspan="2">R5</th> <th>R6</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0(1)回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 令和元年度実績については、外部からの専門家を招聘して対面で実施する予定で準備していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、研修会の資料をポータルサイトに掲載し、各自で研修を行ったことから、「0(1)回」と表記した。</p> <p>○情報セキュリティ研修会の内容等 内 容：ゼロトラスト環境について～ゼロトラストVPNの安全範囲を理解する～メールやOneDriveの多要素認証の試行について 開 催：令和6年2月 参加者：全教職員の参加を必須とし、当日参加できない教職員向けに動画配信を行った。</p> <p>●消防訓練実施回数</p>	R元	R2	R3	R4	R5		R6	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	0(1)回	2回	1回	2回	1回	1回	1回
R元	R2	R3	R4	R5		R6																			
実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標																			
0(1)回	2回	1回	2回	1回	1回	1回																			

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績						
				R元	R2	R3	R4	R5		R6
				実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標
				2回	2回	2回	各1回	各1回	各1回	2回
<p>(3) 施設・設備の整備、活用等に関する目標</p> <p>良好な教育研究環境を保つため、施設・設備の適切な維持管理を行うとともに、時代のニーズに応じた整備に関する目標と計画を策定し、実施する。また、教育研究及び管理に支障のない範囲において、施設・設備の地域での活用を図る。</p>	<p>(3) 施設・設備の整備、活用等に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア 快適な教育研究環境を学生に提供するため大学施設、設備の最適化を図り、修繕計画を策定し、改修、維持管理を効率的に実施する。</p> <p>イ 設備更新の際は、省エネルギー化、CO₂削減等環境に配慮する。</p> <p>ウ 学生の主体的な学びを促す教育方法（グループワーク等）に対応する施設を備えた校舎の新増設を実施する。</p> <p>【指標】</p> <p>8-(3)-1 本中期計画期間中にグループワークを取り入れた授業科目数を平成30年度比1.5倍以上にする。</p> <p>8-(3)-2 施設改修、維持管理を適切に実施するため、本中期計画期間中に修繕計画を作成する。</p>	<p>(3) 施設・設備の整備、活用等に関する目標を達成するための措置</p> <p>ア インフラ長寿命化基本計画を踏まえ、大学の施設や設備の改修、維持管理を効率的に行う。また、市民等による大学の施設の活用を図る。</p> <p>イ 省エネルギー化、CO₂削減など、環境に配慮した設備更新を行う。</p> <p>ウ 学生の主体的な学びを促す教育方法（グループワーク等）に対応する施設を備えた新校舎が、学生の主体的な学びを促す教育方法で運用されていることを検証する。</p> <p>【指標】</p> <p>8-(3)-1 グループワークを取り入れた授業科目数を中期計画に定める「平成30年度比1.5倍以上」にする。</p> <p>8-(3)-2 施設改修、維持管理を適切に実施するため、インフラ長寿命化基本計画を踏まえた個別施設計画策定の準備を進める。</p>	<p>○訓練の内訳等</p> <p>8月 図上訓練（職員9名参加）</p> <p>11月 実施訓練（教職員35名、学生45名参加）</p>	A	○ インフラ長寿命化基本計画を踏まえ、 <u>10周年記念棟駐車場の整備、エレベーターグランドパッキング更新、冷温水二次ポンプ制御 PLC 取替、外調機用温度調節器取替、食堂ブラインド整備、冷温水流量計取替、EXP.J 交換工事、消火器更新、更衣室給湯器取替更新</u> などを行った。					
				B	○ 市民による大学施設の活用として、 <u>市内の高等学校が大学入学共通テストのシミュレーションを行うため、講義室を使用したほか、食堂の市民開放を PR し、新聞等に掲載された。</u>					
				A	○ 情報棟（新校舎）に設置したラーニング・コモンズ（グループワークに対応したスペース）は <u>21 科目で利用</u> しており、学生の主体的な学びを促す教育を推進した。（詳細は、下記の【指標】8-(3)-1 を参照。）					
				A	○ 情報棟（新校舎）に設置したラーニング・コモンズ（グループワークに対応したスペース）は 21 科目で利用しており、平成30年度（10科目）の <u>2.1 倍の利用</u> となった。					
				B	○ 実験棟パッケージエアコン新設に際して、エネルギー効率の高い製品を導入し、光熱水費使用量の低減が可能になった。					
				B	○ LED 化事業の推進として、本部棟アトリウム照明の取替を行った。					
				B	○ 実験棟パッケージエアコン新設に際して、エネルギー効率の高い製品を導入し、光熱水費使用量の低減が可能になった。					
				B	○ 情報棟（新校舎）に設置したラーニング・コモンズ（グループワークに対応したスペース）は 21 科目で利用しており、平成30年度（10科目）の <u>2.1 倍の利用</u> となった。					
				B	○ 主な科目は、「キャリア形成 A1」、「地域課題プロジェクト」、「情報システムセミナー」、「プロジェクト基礎演習」、「感性工学」、「ソフトウェアデザイン」、「サービスプロジェクト」、「人間コミュニケーション論」、「情報と職業」などである。					
				B	○ インフラ長寿命化基本計画を踏まえた個別施設計画策定の準備を進めるため、建物総合管理を委託している業者と7月に打ち合わせを行い、経年劣化箇所などを確認した。					

公立大学法人公立千歳科学技術大学 令和5年度計画 業務実績報告(項目9)

中期目標	中期計画	令和5年度計画	自己評価	令和5年度業務実績																																																																																																																		
<p>9 中期目標期間において達成すべき数値的目標</p> <p>(1) 教育研究等の質の向上に関する目標</p> <p>ア 入学定員を確保し、令和3年度以降継続して収容定員の充足を図る。</p> <p>イ 科学研究費助成事業の全国採択率以上を目指す。</p> <p>ウ 就職希望者就職率100%を目指す。</p> <p>(2) 地域社会等との連携・協力に関する目標</p> <p>公開講座について、市民ニーズの把握と実施内容の満足度の向上を目指す。</p> <p>(3) 財務内容の改善に関する目標</p> <p>令和3年度以降継続して収容定員の充足を図り、不断の経営努力による健全経営を目指す。</p> <p>(4) その他の目標</p> <p>FD及びSDを合計年5回以上実施する。</p>	<p>9 中期計画期間において達成すべき数値的目標</p> <p>中期目標における次の(1)から(4)の目標を達成するため、上記2から8に掲げた計画を実施する。</p> <p>(1) 教育研究等の質の向上に関する目標</p> <p>ア 入学定員を確保し、平成33年度(令和3年度)以降継続して収容定員の充足を図る。</p> <p>イ 科学研究費助成事業の全国採択率以上を目指す。</p> <p>ウ 就職希望者就職率100%を目指す。</p> <p>(2) 地域社会等との連携・協力に関する目標</p> <p>公開講座について、市民ニーズの把握と実施内容の満足度の向上を目指す。</p> <p>(3) 財務内容の改善に関する目標</p> <p>平成33年度(令和3年度)以降継続して収容定員の充足を図り、不断の経営努力による健全経営を目指す。</p> <p>(4) その他の目標</p> <p>FD及びSDを合計年5回以上実施する。</p>			<p>(1) 教育研究等の質の向上に関する目標</p> <p>ア-1 入学定員充足率(4月1日現在) (単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学部</td> <td>104.6</td> <td>109.2</td> <td>112.9</td> <td>107.5</td> <td>112.5</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>大学院</td> <td>69.6</td> <td>82.6</td> <td>108.7</td> <td>143.5</td> <td>165.2</td> <td>239.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>ア-2 収容定員充足率(5月1日現在) (単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学部</td> <td>97.0</td> <td>105.3</td> <td>114.0</td> <td>114.0</td> <td>114.9</td> <td>112.3</td> </tr> <tr> <td>大学院</td> <td>61.2</td> <td>71.4</td> <td>93.9</td> <td>122.4</td> <td>155.1</td> <td>206.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>イ 科研費応募申請率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>申請率</td> <td>50.0%</td> <td>65.5%</td> <td>76.5%</td> <td>80.0%</td> <td>94.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>ウ 就職率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>99.3%</td> <td>98.0%</td> <td>97.1%</td> <td>98.4%</td> <td>98.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 地域社会等との連携・協力に関する目標</p> <p>公開講座満足度の実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>97.0%</td> <td>93.0%</td> <td>98.3%</td> <td>96.0%</td> <td>93.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>各回において、受講者アンケート調査を実施し、満足度を集計したほか、開催方法などについても希望調査を行い、受講しやすい時期・内容などを工夫して取り組んだ。</p> <p>(3) 財務内容の改善に関する目標</p> <p>収容定員の状況は、前記のア-2を参照。</p> <p>収支均衡状況(損益計算書における当期総利益計上)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>58,825千円</td> <td>114,491千円</td> <td>185,250千円</td> <td>92,342千円</td> <td>449,043千円(臨時利益含む)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) その他の目標</p> <p>FD及びSDを合計年5回以上実施する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FD研修会</td> <td>0(2)回</td> <td>2回</td> <td>3回</td> <td>3回</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td>SD研修会</td> <td>1(2)回</td> <td>6回</td> <td>8回</td> <td>8回</td> <td>8回</td> </tr> <tr> <td>合同研修会</td> <td>0(1)回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>3回</td> <td>2回</td> </tr> </tbody> </table>		R元	R2	R3	R4	R5	R6	学部	104.6	109.2	112.9	107.5	112.5	100.0	大学院	69.6	82.6	108.7	143.5	165.2	239.1		R元	R2	R3	R4	R5	R6	学部	97.0	105.3	114.0	114.0	114.9	112.3	大学院	61.2	71.4	93.9	122.4	155.1	206.1		R元	R2	R3	R4	R5	申請率	50.0%	65.5%	76.5%	80.0%	94.4%		R元	R2	R3	R4	R5		99.3%	98.0%	97.1%	98.4%	98.4%		R元	R2	R3	R4	R5		97.0%	93.0%	98.3%	96.0%	93.6%		R元	R2	R3	R4	R5		58,825千円	114,491千円	185,250千円	92,342千円	449,043千円(臨時利益含む)		R元	R2	R3	R4	R5	FD研修会	0(2)回	2回	3回	3回	3回	SD研修会	1(2)回	6回	8回	8回	8回	合同研修会	0(1)回	2回	1回	3回	2回
	R元	R2	R3	R4	R5	R6																																																																																																																
学部	104.6	109.2	112.9	107.5	112.5	100.0																																																																																																																
大学院	69.6	82.6	108.7	143.5	165.2	239.1																																																																																																																
	R元	R2	R3	R4	R5	R6																																																																																																																
学部	97.0	105.3	114.0	114.0	114.9	112.3																																																																																																																
大学院	61.2	71.4	93.9	122.4	155.1	206.1																																																																																																																
	R元	R2	R3	R4	R5																																																																																																																	
申請率	50.0%	65.5%	76.5%	80.0%	94.4%																																																																																																																	
	R元	R2	R3	R4	R5																																																																																																																	
	99.3%	98.0%	97.1%	98.4%	98.4%																																																																																																																	
	R元	R2	R3	R4	R5																																																																																																																	
	97.0%	93.0%	98.3%	96.0%	93.6%																																																																																																																	
	R元	R2	R3	R4	R5																																																																																																																	
	58,825千円	114,491千円	185,250千円	92,342千円	449,043千円(臨時利益含む)																																																																																																																	
	R元	R2	R3	R4	R5																																																																																																																	
FD研修会	0(2)回	2回	3回	3回	3回																																																																																																																	
SD研修会	1(2)回	6回	8回	8回	8回																																																																																																																	
合同研修会	0(1)回	2回	1回	3回	2回																																																																																																																	

公立大学法人公立千歳科学技術大学 令和5年度計画 業務実績報告(項目10～)

中期計画	令和5年度計画	令和5年度業務実績																											
<p>10 予算(人件費を含む)、収支計画及び資金計画</p> <p>11 短期借入金の限度額 (1) 限度額 2億円 (2) 想定される理由 事故の発生等により、緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定される。</p> <p>12 出資等に係る不要財産の処分に関する計画 なし</p> <p>13 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 なし</p> <p>14 剰余金の使途 決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上、組織運営及び施設設備の改善に充てる。</p> <p>15 公立大学法人公立千歳科学技術大学の業務運営並びに財務及び会計に関する規則で定める事項 (1) 施設及び設備に関する計画 ア 教員の増員及びアクティブ・ラーニング等、学生の主体的な学びを促す教育方法を取入れる授業科目の増加等に対応するため、ラーニング・コモンズ、研究室等から構成される校舎の新增設を平成34年度(令和4年度)供用開始に向けて推進する。 イ 既存校舎、施設設備について、故障や老朽化等による必要な整備を計画的に実施する。また、教育研究の推進及び学生サービスの維持向上に必要な施設設備を整備する。具体的な整備内容は各事業年度の予算編成過程において、必要性、優先度等により決定する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">計 画</th> <th style="text-align: center;">予定額</th> <th style="text-align: center;">財 源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①校舎の増設、新規採用教員の研究室整備</td> <td style="text-align: center;">1,500 百万円</td> <td style="text-align: center;">千歳市補助金</td> </tr> <tr> <td>②既存校舎、施設設備に係る取替更新、大規模修繕</td> <td style="text-align: center;">653 百万円</td> <td style="text-align: center;">千歳市補助金</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 人事に関する計画 ア 教員並びに職員の採用は原則公募制とし、幅広く優秀な人材を確保する。 イ 教員については、FD研修の実施及び検証を行い、資質向上を図る。 ウ 職員については、SD研修の充実や適切な人事異動により、大学運営に求められる知識・経験を蓄積することで、能力向上を図る。</p> <p>(3) 中期目標の期間を超える債務負担</p>	計 画	予定額	財 源	①校舎の増設、新規採用教員の研究室整備	1,500 百万円	千歳市補助金	②既存校舎、施設設備に係る取替更新、大規模修繕	653 百万円	千歳市補助金	<p>10 予算(人件費を含む)、収支計画及び資金計画</p> <p>11 短期借入金の限度額 (1) 限度額 2億円 (2) 想定される理由 事故の発生等により、緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定される。</p> <p>12 出資等に係る不要財産の処分に関する計画 なし</p> <p>13 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 なし</p> <p>14 剰余金の使途 決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上、組織運営及び施設設備の改善に充てる。</p> <p>15 公立大学法人公立千歳科学技術大学の業務運営並びに財務及び会計に関する規則で定める事項 (1) 施設及び設備に関する計画 既存校舎、施設設備について、故障や老朽化等による必要な整備を計画的に実施する。また、教育研究の推進及び学生サービスの維持向上に必要な施設設備を整備する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">計 画</th> <th style="text-align: center;">予定額</th> <th style="text-align: center;">財 源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①新規採用教員の研究室整備</td> <td style="text-align: center;">27,500 千円</td> <td style="text-align: center;">千歳市施設整備補助金</td> </tr> <tr> <td>②既存校舎、施設設備に係る取替更新、大規模修繕</td> <td style="text-align: center;">183,321 千円</td> <td style="text-align: center;">千歳市施設整備補助金</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 人事に関する計画 ア 教員並びに職員の採用は原則公募制とし、幅広く優秀な人材を確保する。 イ 教員には、FD研修の実施及び検証を行い、資質向上を図る。 ウ 職員には、SD研修の充実や適切な人事異動により、大学運営に求められる知識・経験を蓄積することで能力向上を図る。</p> <p>(3) 中期目標の期間を超える債務負担</p>	計 画	予定額	財 源	①新規採用教員の研究室整備	27,500 千円	千歳市施設整備補助金	②既存校舎、施設設備に係る取替更新、大規模修繕	183,321 千円	千歳市施設整備補助金	<p>10 予算(人件費を含む)、収支計画及び資金計画 財務諸表及び決算報告書を参照。(別冊)</p> <p>11 短期借入金の限度額 借入れは行わなかった。</p> <p>12 出資等に係る不要財産の処分に関する計画 なし</p> <p>13 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画 なし</p> <p>14 剰余金の使途 決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上、組織運営及び施設設備の改善に充てることとし、目的積立金を活用した。</p> <p>15 公立大学法人公立千歳科学技術大学の業務運営並びに財務及び会計に関する規則で定める事項 (1) 施設及び設備に関する計画 計画どおりに実施した。 既存校舎、施設設備について、故障や老朽化等による必要な整備を計画的に実施した。また、教育研究の推進及び学生サービスの維持向上に必要な施設設備を整備・更新を行った。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">計 画</th> <th style="text-align: center;">(令和5年度)実績</th> <th style="text-align: center;">財 源</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①新規採用教員の研究室整備</td> <td style="text-align: center;">21,454 千円</td> <td style="text-align: center;">千歳市施設整備補助金</td> </tr> <tr> <td>②既存校舎、施設設備に係る取替更新、大規模修繕</td> <td style="text-align: center;">179,311 千円</td> <td style="text-align: center;">千歳市施設整備補助金</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 人事に関する計画 ア 教職員の採用については、原則公募で実施した。 イ 令和5年度はFD研修を3回実施した。 ウ 令和5年度はSD研修を8回実施したほか、定期の人事異動を行った。</p> <p>(3) 中期目標の期間を超える債務負担</p>	計 画	(令和5年度)実績	財 源	①新規採用教員の研究室整備	21,454 千円	千歳市施設整備補助金	②既存校舎、施設設備に係る取替更新、大規模修繕	179,311 千円	千歳市施設整備補助金
計 画	予定額	財 源																											
①校舎の増設、新規採用教員の研究室整備	1,500 百万円	千歳市補助金																											
②既存校舎、施設設備に係る取替更新、大規模修繕	653 百万円	千歳市補助金																											
計 画	予定額	財 源																											
①新規採用教員の研究室整備	27,500 千円	千歳市施設整備補助金																											
②既存校舎、施設設備に係る取替更新、大規模修繕	183,321 千円	千歳市施設整備補助金																											
計 画	(令和5年度)実績	財 源																											
①新規採用教員の研究室整備	21,454 千円	千歳市施設整備補助金																											
②既存校舎、施設設備に係る取替更新、大規模修繕	179,311 千円	千歳市施設整備補助金																											

中期計画	令和5年度計画	令和5年度業務実績
なし (4) 積立金の使途 なし (5) その他法人の業務運営に関し必要な事項 なし	なし (4) 積立金の使途 なし (5) その他法人の業務運営に関し必要な事項 なし	なし (4) 積立金の使途 なし (5) その他法人の業務運営に関し必要な事項 なし

公立大学法人公立千歳科学技術大学 中期目標・中期計画・令和5年度計画 対比表(用語解説)

中期計画	令和5年度計画
用 語 解 説	用 語 解 説
<p>*1 リテラシー 知識を活用して問題を解決する能力のこと。習得した知識を現実の問題に活用できる能力をいう。</p> <p>*2 総合型選抜 詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に判定する入試方法。(文部科学省HP)</p> <p>*3 ディプロマ・ポリシー (DP) 各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針。 (出典：中央教育審議会分科会大学教育部会資料2016.3.31)</p> <p>*4 コンピテンシー 知識・技術・能力等を活用する又は活用できる能力。(資質、行動特性)</p> <p>*5 シラバス 各授業科目の詳細な授業計画。一般に、大学の授業名、担当教員名、講義目的、回数ごとの授業内容、成績評価方法・基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記されており、学生が各授業科目の準備学習を進めるための基本となるもの。 (出典：中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて」(答申)2008年12月)</p> <p>*6 ポートフォリオ 学生の正課及び正課外で取組んだ何らかの成果物を蓄積して、自分の能力養成の振り返りに活用するツールで一般的には、情報システムを活用する。本学では、「高大接続改革推進事業」により、社会の要請に基づく質保証に応え、もって高大接続システム改革に資する教育システムの確立を目指している。獲得すべきコンピテンシーを定義していることから、これに沿って獲得した状況やそのエビデンスとなる学修成果物を蓄積できるようにする。</p> <p>*7 ICT(Information and Communication Technology (情報通信技術)) コンピュータや情報通信ネットワーク(インターネット等)などの情報コミュニケーション技術のこと。 (出典：「教育の情報化に関する手引」 2010年10月)</p> <p>*8 ラーニング・コモンズ 大学等での教育機関にて能動的に学修する学生の利用目的や学修方法にあわせ、図書館資料やICTを柔軟に活用し、効率的に学修を進めるための総合的な学修環境。</p>	<p>*1 一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜 文部科学省は、2020年度より入試改革として多面的・総合的な評価の観点からの改善を図りつつ、各々の入学者選抜としての特性をより明確にするため、入試区分を次のように改めた。 (変更前) (変更後) ・「一般入試」→「一般選抜」 ・「AO入試」→「総合型選抜」 ・「推薦入試」→「学校推薦型選抜」</p> <p>*2 総合型選抜 詳細な書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることによって、入学志願者の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識等を総合的に判定する入試方法。(文部科学省HP)</p> <p>*3 国際連携推進委員会 国際化プログラムに係る国内外における教育・研究活動の推進を図ることを目的とした委員会。</p> <p>*4 カリキュラムマップ 科目間の繋がりを体系的に示した図。</p> <p>*5 シラバス 各授業科目の詳細な授業計画。一般に、大学の授業名、担当教員名、講義目的、回数ごとの授業内容、成績評価方法・基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記されており、学生が各授業科目の準備学習を進めるための基本となるもの。 (出典：中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて」(答申)2008年12月)</p> <p>*6 コンピテンシー 知識・技術・能力等を活用する又は活用できる能力。(資質、行動特性)</p> <p>*7 e-ポートフォリオ 学生の正課及び正課外で取組んだ何らかの成果物を蓄積して、自分の能力養成の振り返りに活用するツールで一般的には、情報システムを活用する。本学では、「高大接続改革推進事業」により、社会の要請に基づく質保証に応え、もって高大接続システム改革に資する教育システムの確立を目指している。獲得すべきコンピテンシーを定義していることから、これに沿って獲得した状況やそのエビデンスとなる学修成果物を蓄積できるようにする。</p> <p>*8 IR委員会 IRはエビデンスベースから大学教育改善へとつなげることを大学内制度として組み入れることを指し、IRの諸機能の内「教育改善に関する機能を担うデータ」に基づき、学修支援方策等を検討する委員会。</p>

中期計画	令和5年度計画
<p>*9 学際系科目 特定の学問領域にとどまらず、いくつかの分野にまたがる科目。</p> <p>*10 専任教員ST比 教員1人当たりの学生数の比率で教育環境の指標。</p> <p>*11 サバティカル制度 長期間勤務した教員の教育向上と研究の推進を目的に、学内の職務を一定期間免除して長期の教育・研究等の期間を与える制度。</p> <p>*12 科研費 科学研究費助成事業の略。文部科学省及び独立行政法人日本学術振興会が実施する助成事業。</p> <p>*13 競争的外部資金 客観的かつ厳正な審査を経て選択的に配分される学外の研究資金。</p> <p>*14 『スマートネイチャーシティちとせ(Smart Nature City ちとせ)』(SNC)構想 本学が有する理工系の人材と知識を千歳のまちづくりに展開することで地域経済活性化や市民生活向上などの効果を生み、地域の発展に寄与する公立千歳科学技術大学の構想。</p> <p>*15 PWC 特定非営利活動法人ホトニクスワールドコンソーシアムの略。千歳市が事務局を担い、産学官が共同し先端テクノロジーの研究開発拠点の形成と新産業の創出・育成を目指す組織として、本学と共に各種研究プロジェクトを強力に推進している。</p> <p>*16 eラーニングシステム インターネットなど情報技術を用いて行う学習システム。</p> <p>*17 理科工房 持続的な科学啓蒙活動や地域連携活動を実践する本学の学生プロジェクトチーム。千歳市内外の児童・生徒を主に対象として理科実験などの演示を行っている。</p> <p>*18 学習ボランティア 本学の学習ボランティアとは、千歳市内の小中学校、高等学校及び生活困窮世帯の中学生・高校生を対象とした千歳市学習支援事業において、児童・生徒を対象に学習支援を行っている学生をいう。</p> <p>*19 FD(ファカルティ・ディベロップメント) 大学教員の教育能力を高めるための取組。</p> <p>*20 SD(スタッフ・ディベロップメント) 大学職員の能力を高めるための取組。</p> <p>*21 OJT オン・ザ・ジョブ・トレーニング。職場での実務を通じて行う教育訓練。</p>	<p>*9 言語リテラシー リテラシーとは、知識を活用して問題を解決する能力のこと。習得した知識を現実の問題に活用できる能力をいう。言語リテラシーとは、日本語を運用する能力のこと。</p> <p>*10 地域課題プロジェクト 令和2年度入学者から適用したカリキュラムにて新設した科目で、地域の課題をグループ単位で発見し、その解決の方策をグループでのディスカッション等により見いだすことにより協働性や主体性などを養い、人間力を高めることを主な目的とした科目。</p> <p>*11 ラーニング・コモンズ 大学等での教育機関にて能動的に学修する学生の利用目的や学修方法にあわせ、図書館資料やICTを柔軟に活用し、効率的に学修を進めるための総合的な学修環境。</p> <p>*12 ICT(Information and Communication Technology(情報通信技術)) コンピュータや情報通信ネットワーク(インターネット等)などの情報コミュニケーション技術のこと。(出典:「教育の情報化に関する手引」2010年10月)</p> <p>*13 FD(ファカルティ・ディベロップメント)委員会 大学教員の教育能力を高めるための取組を行う教員組織。</p> <p>*14 大学紀要 大学・研究機関等において、学部、学科、専攻などの単位で刊行される学術雑誌。</p> <p>*15 専任教員ST比 教員1人当たりの学生数の比率で教育環境の指標。</p> <p>*16 サバティカル制度 長期間勤務した教員の教育向上と研究の推進を目的に、学内の職務を一定期間免除して長期の教育・研究等の期間を与える制度。</p> <p>*17 競争的外部資金 客観的かつ厳正な審査を経て選択的に配分される学外の研究資金。</p> <p>*18 SNC構想『スマートネイチャーシティちとせ(Smart Nature City ちとせ)』 本学が有する理工系の人材と知識を千歳のまちづくりに展開することで地域経済活性化や市民生活向上などの効果を生み、地域の発展に寄与する公立千歳科学技術大学の構想。</p> <p>*19 学長への手紙 学生ニーズを把握する方法の一つであり、個人や団体の別を問わず、学生はいつでも忌憚のない意見や要望等を学長に伝えることができ、その手段として利用される投書や電子メール。</p> <p>*20 理科工房 持続的な科学啓蒙活動や地域連携活動を実践する本学の学生プロジェクトチーム。千歳市内外の児童・生徒を主な対象として理科実験などの演示を行っている。</p> <p>*21 PWC 特定非営利活動法人ホトニクスワールドコンソーシアムの略。千歳市が事務局を担い、産学官が共同し先端テクノロジーの研究開発拠点の形成と新産業の創出・育成を目指す組織として、本学と共に各種研究プロジェクトを強力に推進している。</p> <p>*22 eラーニングシステム インターネットなど情報技術を用いて行う学習システム。</p> <p>*23 CBT(Computer Based Test) インターネットを利用して試験を行う仕組み。</p> <p>*24 学習ボランティア 本学の学習ボランティアとは、千歳市内の小中学校、高等学校及び生活困窮世帯の中学生・高校生を対象とした千歳市学</p>

中期計画	令和5年度計画
	<p>習支援事業及び高大連携事業において、児童・生徒を対象に学習支援を行っている学生をいう。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 25 SD(スタッフ・ディベロップメント) 大学職員の能力を高めるための取組。 * 26 FD(ファカルティ・ディベロップメント) 大学教員の教育能力を高めるための取組。 * 27 科学研究費助成事業 文部科学省及び独立行政法人日本学術振興会が実施する助成事業。科研費は、科学研究費助成事業の略。 * 28 研究シーズ集 研究者が保有している科学技術研究の種(Seeds=シーズ)となる研究や事業化が見込まれる開発研究を紹介した冊子。 * 29 ポータルサイト 事務局から学生や教員に各種連絡通知が行えるシステム。